

日本医科大学付属病院案内

(デジタル版)



One Health for the World

—ヒトの健康、動物の健康、環境の健康を追求し、明日の世界に貢献する人材を育成する—

Nippon Medical School Hospital

理念、基本方針、患者さんの権利

理 念

「つくすところ」で、良質な医療を提供します。

また、教育の場として、優れた医療人の育成に努めます。

基本方針

最終改訂日 平成27年11月

1. 患者さんの権利を尊重し、患者さんの立場に立った医療を実践します。
2. 安全で安心な質の高い医療の確保に最善の努力を払います。
3. 説明と同意を徹底し、患者さんの医療への参加を促します。
4. 人間性豊かな医療人の育成に努めます。
5. 地域の基幹病院として、保健・医療・福祉に貢献します。
6. 先進的医療を提供するため臨床研究を推進します。

患者さんの権利

最終改訂日 令和2年4月1日

1. 人としての人格が尊重されます。
2. 公平で安全な、質の高い医療を受けることができます。
3. 病状と治療に関する十分な説明と情報提供を受けることができます。
4. 患者さん自身で治療を選択することができます。また、他の医療機関での診療を希望することができます。
5. 医療の過程で得られた個人情報、厳正に保護されます。

子どもの権利憲章

日本医科大学付属病院 子どもの権利憲章

平成27年11月20日制定(Ver.1.0)

1. 子どもたちは、いつでもどんなときでもひとりの人間として大切にされ、個人として尊重されなければなりません。
2. 子どもたちは、どんな病気であっても、最善の医療を受ける権利があります。
3. 当院では、子どもたちは、いつでも安心できる環境で、安全な医療を受けることができます。
4. 当院では、子どもたちは、病気のことやその治療方法について、それぞれの年齢や理解力に合わせ、十分な説明を受けることができます。
5. 当院で医療を受ける子どもたちは、自分の考えを病院の人やご家族に自由に話すことができ、また不安なことや分からないことがあるときは自由に話したり、聞いたりすることができます。
6. 子どもたちは、自分の健康について自分の意思で決めることができないときは、代わりとしてご家族にきめてもらうことができます。
7. 当院では、医療を受ける時に子どもたちは、自分が嫌だと思うことについて嫌だと言ったり、泣いたり、大きな声を出すことができます。
8. 当院では入院中、子どもたちはご家族と一緒に過ごすことができます。
9. 当院では子どもたち入院中も、年齢や成長発達に合わせた遊びやレクリエーションに参加でき、また教育を受けることができます。
10. 当院では入院生活において、子どもたちとそのご家族のプライバシーは、いつでも守られます。



日本医科大学付属病院
NIPPON MEDICAL SCHOOL HOSPITAL

院長挨拶



日本医科大学付属病院
院長 山口 博樹

日本医科大学付属病院は、明治43年に千駄木の地で開院以来、地域に根差した医療を展開して参りました。

長年にわたり、特定機能病院として先進的な医療を提供し続け、わが国初の救命救急センターの設置や地域がん診療連携拠点病院の指定などを通じて、時代の要請に応える高度医療の中心的役割を担ってきました。

今後は、がん、難病、希少疾患への専門的治療のさらなる充実を図るとともに、免疫細胞療法やロボット支援手術などの最先端医療を積極的に導入し、安全かつ効果的な治療を提供してまいります。

また、救命救急医療体制の強化や災害時における災害拠点病院としての機能維持にも万全を期し、いかなる状況下においても安心を届ける体制を構築してまいります。

当院のコンセプトは、「すべての患者さんとそのご家族に、質の高い医療を、わかりやすく、安心して受けていただくこと」です。

この理念のもと、患者支援センターによる一元的な支援体制の整備、総合診療体制やユニバーサル外来の拡充により、初診の段階からの的確な診断と迅速な治療開始を実現しています。

さらに、地域のかかりつけ医や医療機関との密な連携を通じて、患者さんのニーズに応じた切れ目のない医療提供体制を築いてまいります。

「来院されたその日のうちに、安心して治療に臨める病院」を目指して、職員一同が一丸となって取り組んでまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

沿革



沿革

1876年(明治 9年) 4月	長谷川泰が済生学舎を開設
1904年(明治37年) 4月	磯部検三が私立日本医学校を創立
1910年(明治43年) 1月	文京区千駄木に私立日本医学校付属駒込医院を開設(現、日本医科大学付属病院)
1912年(明治45年)	私立日本医学専門学校に昇格
1919年(大正 8年) 4月	私立日本医学専門学校を日本医学専門学校に改称
1926年(大正15年) 2月	財団法人日本医科大学を設立 同年、日本医科大学第二医院と改称
1945年(昭和20年) 3月10日	大空襲により付属第二医院(現在の付属病院)焼失
1952年(昭和27年) 2月	学制改革により新制日本医科大学となる
1954年(昭和29年) 12月	日本医科大学付属医院と改称
1958年(昭和33年) 7月	日本医科大学付属医院を総合病院と称する件認可(衛医医承60号)
1960年(昭和35年) 4月	内視鏡センター設置
1961年(昭和36年)	病理部設置
1963年(昭和38年) 4月	日本医科大学付属医院を日本医科大学付属病院と改称
1965年(昭和40年) 10月	付属病院増築工事完成
1970年(昭和45年)	血液浄化療法室設置
1973年(昭和48年)	集中治療室設置
1975年(昭和50年) 4月	救急医療センター設置
1977年(昭和52年) 1月	救命救急センター設置(厚生省認可第一号)
1986年(昭和61年) 9月	東館開院
1989年(平成元年) 7月	保険審査室設置
1993年(平成 5年) 4月	高度救命救急センターに指定(厚生省認可第一号)
1993年(平成 5年)12月	特定機能病院承認
1995年(平成 7年) 4月	医療連携室設置
1996年(平成 8年)11月	エイズ診療拠点病院
1997年(平成 9年) 2月	東京都災害拠点病院(地域災害拠点中核病院)指定
1997年(平成 9年) 7月	東洋医学科設置
2003年(平成15年) 11月	医療情報室設置
2004年(平成16年) 5月	輸液療法室(現 外来化学療法室)設置
2004年(平成16年) 4月	ME部設置
2004年(平成16年) 8月	東京DMAT指定医療機関
2005年(平成17年) 5月	脳卒中(SU)ユニット開設(6床)
2008年(平成20年) 2月	地域がん診療連携拠点病院に指定
2011年(平成23年) 3月	新病院 着工
2014年(平成26年) 8月	新病院(前期)開院 (アクションプラン 1期)
2016年(平成28年) 6月	日本医療機能評価機構 病院機能評価(一般病院2)認定
2018年(平成30年) 1月	新病院(後期)開院 (アクションプラン 2期)
2018年(平成30年) 3月	東京DPAT協定等締結医療機関
2018年(平成30年) 3月	がんゲノム医療連携病院の指定
2018年(平成30年) 4月	難病診療連携拠点病院
2021年(令和 3年)12月	新病院(ロータリー、駐車場、公園等)工事完了 (アクションプラン 3期)
2023年(令和 5年) 8月	紹介受診重点医療機関指定

病院概要

開設者 学校法人日本医科大学 理事長 汲 田 伸一郎

管理者 院長 山 口 博 樹

副院長 吉 田 寛 浅 井 邦 也

村 井 保 夫 鈴 木 智恵子

院長



山口 博樹

副院長



吉田 寛



村井 保夫



浅井 邦也



鈴木 智恵子

診療科 42科

許可病床数 877床（一般 850床・精神 27床）

看護種別 一般 看護配置7対1

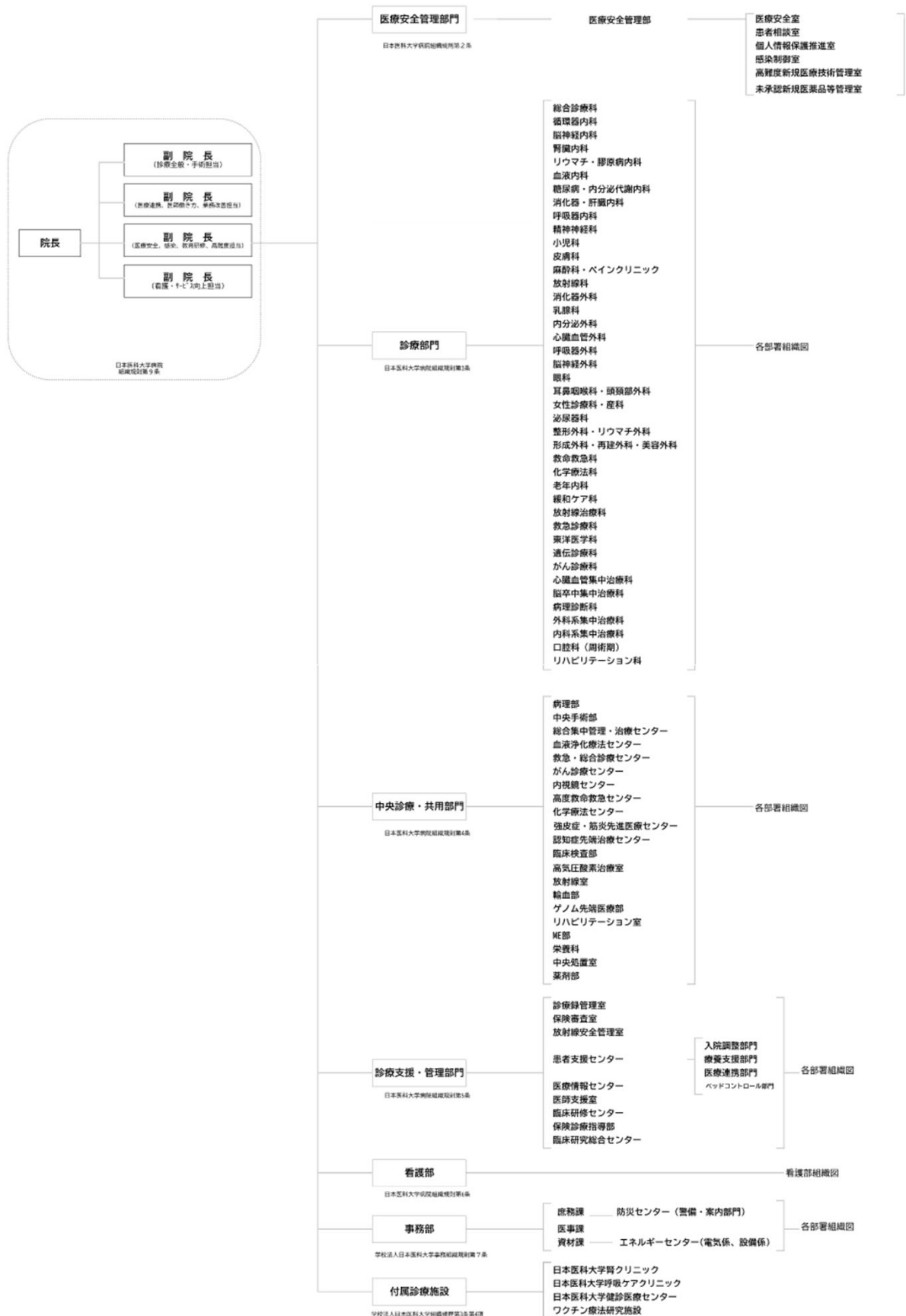
精神 看護配置7対1

職員数 3,048人（令和7年7月現在）

主な施設 高度救命救急センター（CCM部門・CCU部門） 60床
外科系集中治療室 S-ICU 20床 SCU 16床
血液浄化療法センター 15床
新生児集中治療室（NICU）・新生児回復室（GCU）
外来化学療法室 35床
手術室 23室（ハイブリッド手術室1室）
リハビリテーションセンター

組 織 図

日本医科大学付属病院 組織図



令和7年6月1日現在

各種指定等

東京都災害拠点病院(地域災害拠点中核病院)
地域がん診療連携拠点病院
エイズ診療拠点病院
東京都肝臓専門医療機関
指定小児慢性特定疾患医療機関
難病診療連携拠点病院
肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関
東京都指定二次救急医療機関
周産期連携病院
生活保護法の一部を改正する法律による指定
難病医療費助成指定医療機関
がんゲノム医療連携病院
保険医療機関
病院機能評価認定病院
労災保険指定医療機関
特定機能病院
高度救命救急センター
指定自立支援医療機関(更生医療・育成医療・精神通院医療)
身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関
精神保健指定医の配置されている医療機関
医療保護施設
結核指定医療機関
指定養育医療機関(未熟児医療)
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
公害医療機関
母体保護法指定医の配置されている医療機関
臨床修練指定病院
特定疾患治療研究事業委託医療機関
DPC対象病院
東京都地域救急医療センター
調整困難患者(吐下血患者)受入指定病院
臨床研修病院
NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)(平成22年1月1日より認定継続)
JICA国際救急援助隊登録医療機関
東京DMAT指定医療機関
警視庁IMAT協定締結医療機関
東京DPAT協定等締結医療機関
紹介受診重点医療機関

診療科・部門の紹介

医療安全管理部

患者さん、ご家族に安心かつ安全で、質の高い医療を提供します
さらに医療者とともに患者さん、ご家族と一緒に医療に参加できる環境を
整えるよう積極的に取り組んでいます



医療安全管理部部長

浅井 邦也

1988年日本医科大学卒業、第一内科入局。
2019年日本医科大学千葉北総病院副院長・集中治療室部長。
2022年日本医科大学附属豊田内科 大学後援教授。
2024年日本医科大学付属病院長
総合内科専門医、循環器学会専門医、脳学会認定専門医、
心血管インターベンション治療学会名誉専門医

当院の医療安全管理部は、医療安全室、患者相談室、個人情報保護推進室、感染制御室、高難度新規医療技術管理室、未承認新規医薬品等管理室の6部署で構成されています。

医療安全管理者(ゼネラルリスクマネージャー)は定期的な院内巡視とインシデント報告管理システムに基づいて各部署における医療安全対策の実施状況を把握し、分析を行いながら再発防止に向けた企画立案と業務改善に取り組んでいます。

また、相談窓口担当者との連携を図り、医療安全に伴う患者さん、ご家族の相談に対して適切に対応しております。

感染管理部門においては、院内感染防止に関するサーベイランスや相談・指導・啓発などを実施する感染制御チーム(Infection Control Team: ICT)、抗菌薬の適正使用の推進、相談及び支援にあたる抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team: AST)を組織し、診療科及び部署に配置した感染管理マネージャーとともに協働して感染対策を実行しています。

総合診療科

突然の病気や複雑な病態に速やかに解決策を提案



総合診療科部長

高木 元

1993年日本医科大学卒業、第一内科入局・1998年米国アレゲニー大学、1999年ペンシルバニア州立大学、2000年ニュージャージー医科大学インストラクターを経て
2019年日本医科大学循環器内科准教授・2020年日本医科大学多摩永山病院総合診療科部長の後2022年より当院総合診療科部長に就任・専門は循環生理学、難治性下肢潰瘍の再生医療を含む創傷治療、低栄養患者の管理など

いつ何時どのような病気にかかるかは誰にも分かりません。急な病気でお困りのとき、是非ご相談ください。かかりつけ医からの紹介状をお持ちいただければ診療がよりスムーズに受けられます。

救急搬送された患者さんやかかりつけ医から緊急性が高いと判断された紹介患者さんなど、あらゆる場面に24時間体制で対応し、その日のうちに判断ができる体制を目標にしています。

高齢化時代に地域医療を安心して利用していただくため、緊密な医療連携を行っております。皆さまに納得いただける医療を提供できるよう、幅広い知識と各分野に専門的な知識を持つ医師が総合的視点で判断いたします。

さらに複数の疾患や難治性疾患で治療が必要な場合には各専門診療科と連携し対応いたします。

診療科・部門の紹介

循環器内科

すべての循環器疾患に対して、高度医療の提供と医療連携により
患者さんを中心とした地域密接型の診療を実施



循環器内科部長
浅井 邦也

1988年日本医科大学卒業、旧第一内科入局。
2019年日本医科大学千葉北総病院副院長・兼中治療部長。
2022年日本医科大学循環器内科学 大学助教授。
2024年日本医科大学付属病棟副院長
総合内科専門医、循環器学会専門医、救急学会認定専門医、
心臓カテーテル介入治療学会名誉専門医

循環器内科では、不整脈、虚血性心疾患、心不全、血管疾患と幅広い循環器疾患に対して、総勢60名の循環器内科医が、それぞれの専門分野で患者さんの病状に即した医療を提供、さらに地域医療機関との連携を活用し患者さん中心の診療を実践しています。

不整脈診療は、遺伝性不整脈、不整脈薬物治療/カテーテルアブレーション治療、ペースメーカー治療などをおこない、特にカテーテルアブレーション治療では、年間500症例前後の治療を行うハイボリュームセンターとして位置づけられています。

心臓カテーテル治療では、狭心症や心筋梗塞に加えて、閉塞性肥大型心筋症に対する高難度なカテーテル治療(PTSMA)やカテーテルによる大動脈弁置換術(TAVI)を実施、全国からの紹介患者さんを診療しています。

脳神経内科

神経疾患全般に対応しています
緊急性の高い疾患も積極的に受け入れています



脳神経内科部長
須田 智

1999年 日本医科大学卒業後に旧第2内科入局
2021年 日本医科大学脳神経内科 准教授
2023年 埼玉医科大学国際医療センター 脳神経内科・脳卒中内科
教授
2025年4月より現職
神経内科専門医・指導医、脳卒中専門医・指導医、認知症専門
医・指導医、専門医、脳卒中と認知症

脳神経内科は、脳・脊髄といった中枢神経、末梢神経、筋肉の疾患を専門とする診療科です。

頭痛、てんかん、アルツハイマー型認知症などの認知症疾患、パーキンソン病やその類縁疾患、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、多発性硬化症、脳炎・髄膜炎、ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー、筋疾患、幅広い神経疾患全般に対応しています。

神経救急診療に力を注いでおり、脳卒中にとどまらず、てんかんやギラン・バレー症候群、脳炎など、緊急性の高い疾患にも積極的に対応しています。

各分野のスペシャリストが、質の高い医療をお届けします。

診療科・部門の紹介

腎臓内科

「蛋白尿」から「移植」まで あらゆる腎臓病を広い専門性と確かな技術力で診療します



腎臓内科部長
酒井 行直

1992年日本医科大学卒業後、腎臓内科入局。2015年日本医科大学腎臓内科学科専攻教授、2020年当院腎臓内科部長就任。慢性腎臓病、血液浄化療法が専門。日本内科学会総合内科専門医、指導医、日本腎臓学会専門医、指導医、評議員、日本透析医学会専門医、指導医、評議員、日本腹膜透析学会認定医、評議員、日本アフェリシス学会血漿交換療法専門医、移植学会移植認定医

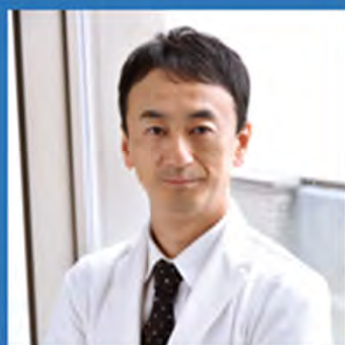
当科はあらゆる「腎臓病」を診療しており、およそ国内で可能な全ての治療法を提供しております。また、近年ではメタボリックシンドロームに関連した慢性臓病(CKD)がとて増えています。当科ではそれらの因子の是正も取り入れた包括的治療を実践しております。

腎不全に対する「腎代替療法」には血液透析、腹膜透析、腎移植の三つの方法があり、全ての治療法を当科で進めることができます。シャント手術やシャント血管形成術(PTA)も行っております。また、腹膜透析も積極的に行っており、腹膜透析関連の手術も当科で施行しております。

われわれ腎臓内科は、腎臓病のどの段階でも対応できる体制をとっております。皆様の健康長寿の助けとなるべく、全人的治療を行う医師としてお待ちしております。

リウマチ・膠原病内科

高い専門性と豊富な診療経験で 膠原病の克服を目指す



リウマチ・膠原病内科部長
桑名 正隆

1988年慶應義塾大学医学部卒業、同大学内科入局。2014年日本医科大学アレルギー・膠原病内科学科専攻主任教授。当院リウマチ・膠原病内科部長に就任。膠原病の中でも特に難治性病態の全身性強皮症、紅斑、間質性肺疾患、肺高血圧症が専門で、血液浄化・感染先端治療センターのセンター長も務める。日本内科学会専門医・指導医、日本リウマチ学会専門医・指導医

膠原病診療には広い視野に立って総合的に判断する能力とともに、豊富な診療経験と高度の専門性が求められます。

当科は経験豊富なスタッフを揃えており、特に難治性病態として残された全身性強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、膠原病に伴う間質性肺疾患や肺高血圧症の克服を目指して最新のガイドラインに則った診療を実践しています。

また、海外専門施設と連携して、新しい治療も積極的に取り入れていきます。膠原病の診療は長期に渡ることから、合併症や薬の副作用を含めて患者さんの目線で全人的医療を提供できるよう努めています。

膠原病でも早期診断・早期治療が大切ですので、心配な症状があればかかりつけ医に相談の上で早めに当科への受診をお勧めします。

診療科・部門の紹介

血液内科

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍だけでなく、再生不良性貧血、凝固線溶系疾患など、多くの血液疾患を対象に専門性を持った医療を提供しています



血液内科部長

脇田 知志

2003年 日本医科大学医学部卒業
2015年 MD Anderson Cancer Center, Leukemia Dept.
(Visiting Assistant Professor)
2019年 日本医科大学 血液内科 講師
2023年 日本医科大学 血液内科 准教授
2025年 日本医科大学 血液内科 部長

日本医科大学付属病院 血液内科は、日本血液学会の専門研修認定施設として血液疾患に対しての標準的治療を行うだけでなく、多くの臨床試験、新規薬剤の治験を行っております。

また、日本造血・免疫細胞療法学会の認定施設としてこれまでに約500症例の造血幹細胞移植治療の経験があります。血液疾患の治療では、呼吸器や人工透析などといった集中治療が必要となる場合がありますが、我々の施設は集中治療が充実した施設です。安心して血液疾患の治療を受けていただきたいと思います。

さらに、血液専門医や造血細胞移植認定医が多数在籍をしており、専門性をもった診察をするだけでなく、多くの治験を行っております。そして、一人一人の患者さんに信頼されるように心のこもった医療を行っております。

糖尿病・内分泌代謝内科

糖尿病治療の数多くの実績、内分泌疾患の豊富な経験
ワンチーム体制でそれぞれの患者さんに合わせた医療を提供します



糖尿病・内分泌代謝内科部長

岩部 真人

2003年 香川医科大学医学部卒業
2009年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
2009年 東京大学 糖尿病・代謝内科 特任助教
2015年 同 特任准教授 2020年 同 講師
2021年 同 准教授
2022年 日本医科大学 内分泌代謝・腎臓内科学分野
大学助教授

糖尿病・内分泌代謝内科は、糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満症などのいわゆる生活習慣病から下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などに関連した内分泌疾患を対象とした診療科です。外来・入院診療においては、患者さんのご要望が最も多い生活習慣病の外来加療および学習入院から、内分泌負荷試験等の特殊検査の実施、持続皮下インスリン注入等の高度医療技術の導入など、時代のニーズに即した先進的医療を実施しています。

また、それぞれの患者さんに合わせた医療を提供するために各疾患に対する専門医だけでなく看護部、臨床検査部、薬剤部、栄養科、医事課、資材課、医療連携室に所属する全てのメディカルスタッフの総力を結集したワンチーム体制で診療にあたっています。

糖尿病、内分泌代謝疾患、肥満症の専門診療においては、病気の性質上、患者さんとの付き合いが長年にわたります。そのため、その患者さんを生涯「診届ける」強い覚悟を持つと同時に、患者さんの日常の不安や変化を常に共有し、通院が気軽になるよう開かれた診療を実践しています。生活習慣病、内分泌疾患でお悩みの方は、安心して是非ご来院頂ければと思います。

診療科・部門の紹介

消化器・肝臓内科

消化管・肝胆膵の良性・悪性、急性期・慢性期、 全ての疾患に対応可能です



消化器・肝臓内科部長

厚川 正則

1998年日本医科大学卒業
日本消化器学会、日本肝臓学会専門医；専門医、指導医
日本内科学会、日本消化器学会；専門医
腫瘍内科学会、呼吸器内科学会および肺高血圧症に関するガイドライン2025年改訂版 編纂
2025年より日本医科大学消化器内科学大学助教授、消化器・肝臓内科主任教授

消化器・肝臓内科では上下部消化管、肝胆膵の良性悪性を問わず全ての疾患の診断と治療に対応が可能です。

その中でも1年365日、24時間対応可能な吐下血患者の緊急診療体制、食道運動機能異常症の診断と治療、消化管内視鏡診断と治療、小腸疾患の診断と治療、慢性肝炎・肝硬変・門脈圧亢進症の診断と治療、胆石・胆管炎の緊急対応、切除不能消化器癌化学療法は特に力を入れている分野です。

当院は救命救急センターを持つ総合病院であり、どんな合併症を持っていても他科と協力しながら消化器疾患への対応が可能です。消化器疾患での相談があれば軽症・重症・難病に関わらず是非、当科を利用していただければと思います。

呼吸器内科

選りすぐりの専門医師が行う 人に優しい呼吸器診療および先進医療



呼吸器内科部長

清家 正博

1992年日本医科大学卒業、同年呼吸器内科入局。2017年日本医科大学呼吸器内科教授・当院呼吸器内科部長に就任。
肺癌の薬物療法の臨床試験や基礎研究が専門であり、2021年より日本癌治療学会理事を務めている。
日本呼吸器学会専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

肺癌、間質性肺炎/肺線維症、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、呼吸器感染症、肺高血圧症などの多彩な疾患の全てに対して、選りすぐりの専門医師がきめ細やかな診療をいたします。

「検診で肺に影が見つかった」「咳がなかなか止まらない」「喘息発作が良くならない」など心配なことがございましたら、いつでも受診ください。

かかりつけ医の先生方と密な連携をしながら、迅速に診断し、適切な治療を行います。

肺癌の治験や臨床試験、重症気管支喘息に対するサーモプラスティ療法などの先進医療に加えて、間質性肺炎などの合併症を有する肺癌治療や薬剤性肺障害に関して、人に優しい専門・先進医療を提供いたします。

診療科・部門の紹介

精神神経科

幅広い年代の様々な心の問題について患者に寄り添い、
脳画像検査・機能評価検査を用いた適切な診断に基づく治療を提供します



精神神経科部長

館野 周

1994年日本医科大学卒業後、同大学精神神経科入局・2021年日本医科大学精神・行動医学分野 大学助教授・当院精神神経科部長に就任。老年精神医学が専門。精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、指導医、日本老年精神医学会専門医、指導医、一般病院連携精神医学専門医、指導医、日本医師会認定医、精神科医療協会会員等

精神疾患にかかる方は年々増加し、直近の調査では年間400万人を超えています。当精神神経科では、思春期以降のあらゆる年代で身近になったうつ病やストレス関連障害、統合失調症などのこころの問題に対して外来・入院診療を行っています。

また、身体疾患に伴う精神症状や精神・身体両面の治療が必要な方に対して他診療科と連携して心身両面からの治療を行っています。

より専門性の高い診療として、難治性および高齢者のうつ病や統合失調症に対して有効な無けいれん性通電療法やクロザリルによる治療を行っています。

専門外来では、小児精神、老年精神、認知症等を診察し、高齢者特有のうつ病か認知症か迷うような方を診察しています。

小児科

優れた総合診療力と高い専門性で
小児のあらゆる疾患に対応します



小児科部長

植田 高弘

1989年：日本医科大学卒業
1996年：日本医科大学大学院修了
1996年：東京大学医学研究所 癌病研究部・小児科
2001年：米国国立衛生研究所(NIH)留学
2001年：日本医科大学小児科助教授
専門：小児血液腫瘍
日本小児科学会専門医、指導医、日本小児血液がん学会専門医、指導医、日本血液学会専門医、指導医

小児科では、一般的疾患から専門的疾患まですべての分野の小児疾患についての外来診療そして入院診療を行っています。

外来受診は、まず一般外来を受診ください。受診予約は不要です。その後必要に応じて適切な専門外来や他の診療科の診療を受けていただくことになります。

専門外来には、血液・腫瘍、膠原病・喘息、循環器、内分泌・代謝、神経、腎・リウマチ、消化器・肝臓、心身症・心理、などがあります。既に紹介状をお持ちで、直接専門外来を受診希望される場合は受診予約をお願いいたします。

病気の子どもたちがより質の高い生活活動が維持できるよう、我々スタッフ一同は、よりよい医療の提供、社会の小児医療に対するニーズに応じた医療を行ってまいります。

診療科・部門の紹介

皮膚科

様々な分野のスペシャリストが多数在籍し、あらゆる皮膚疾患に対応します



皮膚科部長

佐伯 秀久

1991年東京大学医学部卒業・2014年日本医科大学皮膚科学教室主任教授、当院皮膚科部長に就任。アトピー性皮膚炎、乾癬の研究と治療が専門で、2021年より日本小児皮膚科学会の会費を納めている。
日本皮膚科学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本レーザー医学会指導医

日本医科大学付属病院皮膚科は、皮膚に関する病気ならどんなものでも対応できるよう、手術、レーザー治療を含めて幅広く診療しています。

その上で、アレルギー外来(接触皮膚炎、蕁麻疹)、美容外来、乾癬外来、アトピー性皮膚炎外来、真菌外来、水疱症外来、皮膚外科外来などの、各種専門外来を設置し、高度に専門的な診療も行っています。当科では全国の大学に先駆けて、美容皮膚科の専門外来を開設し多くのレーザーを設置し、多種多様な色素性病変、血管性病変の治療を積極的にしております。

様々な分野のスペシャリストが多数在籍し、あらゆる皮膚疾患に対応します。皮膚に関して気になることがありましたらお気軽にご相談ください。

麻酔科・ペインクリニック

手術麻酔・集中治療・疼痛治療を3本柱に据えた専門医療を提供する



麻酔科・ペインクリニック部長

石川 真士

2007年 日本医科大学卒業、2009年 日本医科大学付属病院麻酔科・ペインクリニック入職、2013年 日本医科大学大学院 終了、2016年 日本医科大学付属病院麻酔科・ペインクリニック講師、2019年 Imperial College London 留学、2020年 日本医科大学付属病院麻酔科・ペインクリニック准教授、2022年10月より現職

麻酔科・ペインクリニックでは、多職種で協力して手術麻酔管理、ペインクリニックを、外科系集中治療科、緩和ケア科と連携し全身管理、疼痛管理を担っています。

手術室では患者さんの術前検査や診察からリスクを評価し、適切な術中管理を計画しています。
また、外科系集中治療科と術中、術後管理を共有することで、より安全な周術期管理を提供しています。

ペインクリニックでは疼痛に苦しむ患者さんに対し、薬剤治療、神経ブロックなどで治療を行っています。
少しでも日々の生活の質向上につながればと思っております。

手術管理、疼痛について気になることがあれば、遠慮なくご相談ください。

診療科・部門の紹介

放射線科

付属病院を支える画像診断と 低侵襲的血管内治療を提供いたします



放射線科部長

林 宏光

1987年日本医科大学卒業。2020年日本医科大学放射線医学教授。2021年日本医科大学付属病院放射線科 部長。
日本医学放射線学会代議員、日本腫瘍学会副理事長等を務め、
放射線診断専門医・指導医、腫瘍専門医・指導医である。

放射線科は長い歴史を誇り、診療各科から依頼された画像診断、核医学診療、低侵襲的血管内治療を行っています。

画像診断は、CT、MRI検査においては当日検査・当日診断も可能です。また乳房撮影、上・下部消化管造影診断、血管造影など、多岐に渡る高精度の診断を行っています。

核医学は脳・心臓を始め全身の検査と診断を担当し、悪性腫瘍の診断に大変有用なPET検査にも携わっています。

低侵襲的血管内治療の対象は大動脈ステントグラフト内挿術、閉塞性動脈硬化症、肝臓がんのTACE治療が多く、Hybrid手術治療室も利用して安全で確実な治療を行っています。

消化器外科

断らない・諦めない医療 ～他施設で切除不能と診断された方にも対応～



消化器外科部長

吉田 寛

1986年日本医科大学卒業後、同大学第1外科（消化器外科）入局。2011年に日本医科大学多摩永山病院外科部長、教授。2016年には同病院院長。2018年日本医科大学 消化器外科学教室主任教授・当院消化器外科部長に就任。
消化器外科一般、肝臓脾外科・門脈圧亢進症の研究と治療が専門

当科の方針は、①地域に根差し近隣の医療機関と力を合わせて行う医療、②患者様のQOLを考慮した適切な治療、③医学的根拠に基づいた諦めない医療を3本柱として、しっかりとしたインフォームドコンセント（説明）のもとにテーラーメイドの医療を行っていくことを目指しております。変化していく時代に即した治療を導入し、ハイレベルな医療を提供しております。

消化器外科領域のなかでも、特に、悪性腫瘍手術は複雑なものや切除不能例も多いのですが、我々は術前術後管理（周術期管理）を工夫し力を入れることにより手術を可能にしています。

“断らない・諦めない医療”で、1人でも多くの患者さんを元気に、そして笑顔にしていきたいと思っています。他の施設で治療を断られた方、切除不能と診断された方に対しても可能な限り対応するのが、大学病院の責務と考えておりますので是非ご相談ください。

診療科・部門の紹介

乳腺科

患者さん一人ひとりにとってベストな治療を提供します
生活の質を大切にチーム一丸となってサポートします



乳腺科部長

武井 寛幸

1986年自治医科大学卒業、群馬大学医学部外科第二講座、埼玉医科大学乳癌センター乳癌外科を経て、2013年日本医科大学乳癌外科大学助教授、同付属病院乳癌科に就任。乳癌疾患の診断、治療において一人ひとりの患者さんに最適な医療の実現を心掛けている。乳癌専門医、乳腺専門医、外科専門医、乳腺専門医、がん治療認定医、乳癌再建責任医師、マンモグラフィ読影認定医、超音波検査認定医。

一人ひとりの患者さんにとって幸福度の高い人生を送っていただくため、生活の質を大切に考え、診断から治療、緩和ケアまで最適な医療を提供いたします。

- ・ 月曜日から土曜日まで迅速な検査、診断を実施します。診断結果に基づいて最適な治療方針を提示いたします。
- ・ 様々なご病気をお持ちの患者さんにも各々の専門科と連携しトータルケアを行います。がん治療専門薬剤師、乳がん認定看護師などのメディカルスタッフが医師とともに治療方針の決定、副作用対策、緩和ケアなどをサポートします。
- ・ 乳房の整容性を重視し形成外科と共に乳房再建手術を行っています。また、化学療法による脱毛への影響を最小限にするために頭皮冷却を導入しています。

内分泌外科

すべての患者さんにエビデンスに基づく専門的医療を
～甲状腺、副甲状腺および副腎疾患～



内分泌外科部長

杉谷 巖

1989年、東京大学医学部卒業、癌研究会附属病院（現がん研有明病院）乳癌外科、腫瘍科での研修を経て、2013年より日本医科大学内分泌外科助教授。専門は甲状腺がんの診断と治療。日本内分泌学会理事、甲状腺癌診療の規程委員長、甲状腺微小嚢胞取り扱い委員長、甲状腺全分化癌研究コンソーシアム代表世話人、日本甲状腺学会理事、日本外科学会専門医・指導医、内分泌外科専門医、日本甲状腺学会専門医、がん治療認定医。

内分泌外科では甲状腺、副甲状腺、副腎疾患の腫瘍性および機能性疾患の診療を行っています。これらの比較的多きな疾患の正確な診断と適切な治療法選択のためには、高度の専門性が求められます。

当科では、豊富な経験によって育まれた、専門的知識と高度の技術を持つスタッフが、常に患者さんの立場に立った優しい診療をモットーに職務にあたっています。

特に甲状腺がんのリスクに応じた診療には定評があり、非手術経過観察から拡大手術、遺伝子プロファイリングに基づく薬物療法まで幅広く対応しています。

また、早くから内視鏡手術を採用し、整容性に配慮した低侵襲手術を行っています。

ウェブサイト <http://nms-endocrinesurgery.com/>

診療科・部門の紹介

心臓血管外科

心臓血管集中治療科・循環器内科・高度救命救急センター・放射線科と協力して、
日本医科大学ハートチームとして
365日24時間体制で緊急手術に対応しています



心臓血管外科部長

石井 庸介

1993年 日本医科大学第二外科(腫瘍外科)入局
1995年 海老名総合病院消化器外科研修
1996年 神原記念病院心臓血管外科研修
2002-2005年 米国ミズーリ州セントルイス・ワシントン大学に留学
2005年 日本医科大学 心臓血管外科助教
2008年 日本医科大学 千葉北総病院心臓血管外科講師
2013年 日本医科大学 千葉北総病院心臓血管外科専任
2014年 日本医科大学 付属病院心臓血管外科専任
2020年 日本医科大学 心臓血管外科大学院教授 日本医科大学付属病院副院長、医療安全管理部長

1. 日本医科大学・心臓血管外科は、1964年に最初の心臓手術を行っており、心臓血管手術を黎明期から始めた数少ない施設の一つで、半世紀以上の伝統と実績を誇ります。
2. 冠動脈バイパス術・弁膜症手術・心房細動手術・大動脈手術・小児心臓手術・末梢血管手術・下肢静脈瘤手術・デバイスリード抜去術の各領域の専門家を擁して最先端の外科治療を行っております。
3. オフポンプ冠動脈バイパス術・経カテーテル大動脈弁植込み術(TAVI)・右小開胸弁膜症手術・内視鏡下心房細動手術・ステントグラフト手術・下肢静脈瘤に対するカテーテル治療等の低侵襲治療にも積極的に取り組んでおります。

呼吸器外科

肺癌・縦隔腫瘍に対する低侵襲治療(ロボット手術など)を実践し、
皆様に満足いただける医療を心がけます
世界で初めて開発した肺癌に対する内視鏡治療を行います



呼吸器外科部長

白田 実男

1994年東京医科大学卒業後、東京医科大学外科学第1講座、
1996年国立がんセンター研究所第2試験部、2001年米国ケースウェスタンリザーブ大学、2007年東京医科大学外科1講座講師、2012年1月同専任、2012年12月から現職、日本肺癌学会委員、河合賞、日本呼吸器内視鏡学会白田賞など受賞

肺癌により苦しんでおられる患者さん、御家族のために「肺癌征圧」を掲げて診療・研究に取り組んでいます。

肺癌・縦隔腫瘍に対してロボット手術を積極的に実施し、低侵襲で安全性の高い手術を提供いたします。

進行肺癌に対しては、呼吸器内科・放射線科と連携し集学的治療を実践し、根治に向けて全力で取り組んでいます。

中枢気道狭窄などに対するレーザー治療、ステント治療、小型肺癌に対する光線力学的治療(PDT)など肺癌に対して幅広い対応を行っています。

プロフェッショナルな外科医集団として皆様のニーズに応じて満足していただける肺癌診療を実践していきます。

診療科・部門の紹介

脳神経外科

脳神経外科の『最後の砦』を目指して： 精緻な技術により高度な医療を提供します



脳神経外科部長
村井 保夫

1993年日本医科大学卒。日本医科大学脳神経外科、高度救命救急センターなどで研鑽後、上山博康先生に師事。さらに、Duke Universityにて福島孝徳先生の指導を受ける。米国 University of Washington, Visiting Scholar。2017年より日本医科大学准教授、2023年より日本医科大学大学院教授。3000例を超える脳腫瘍、脳血管障害の開頭手術経験に加え、新規性と安全性に関する多数の英文論文を執筆。日本脳神経外科学会、脳神経外傷学会、脳卒中の外科学会指導医。

日本医科大学脳神経外科は高度手術技術を基盤に救急医療から生活習慣病に至るまで広範な領域をカバーする医療を実践しています。

高度救命救急センターや脳神経内科との協調的連携による脳卒中治療も当院の特色であり強みです。

下垂体腺腫の世界的権威である寺本明名誉教授、日米の頭蓋底外科をリードした森田明夫教授の指導による『洗練された外科医』がスタッフを構成し、現代の『神の手』、上山博康先生や福島孝徳先生の薫陶を受けた全国手術手技コンテスト優勝者やその指導者が手術を担当します。

その守備範囲は広く、脳動脈瘤、髄膜腫、もやもや病、下垂体腺腫、頭蓋底腫瘍、悪性腫瘍、四肢の痺れ、三叉神経痛、顔面痙攣に及び、長期成績を患者さんに説明可能な手術を提供します。

眼科

12の専門外来で全ての眼科領域を網羅！ 特に難治性網膜疾患や外傷に対する硝子体手術に力を入れています



眼科部長
岡本 史樹

1994年 筑波大学医学部卒業
1997年 茨城県立中央病院眼科
1998年 土浦協同病院眼科
2000年 総合守谷第一病院眼科医長
2001年 筑波大学医学部医療系眼科 講師
2020年 筑波大学医学部医療系眼科 病院教授
2023年 日本医科大学大学院眼科教授

一般外来の他に12の専門外来(網膜硝子体・黄斑・角膜・緑内障・白内障/眼内レンズ・ロービジョン・ドライアイ・眼炎症・斜視弱視・眼の形成外科・眼瞼痙攣・アレルギー外来)を設け、それぞれにスペシャリストの先生が対応、治療します。

網膜疾患は特に私たちが力を入れている分野です。黄斑前膜や黄斑円孔、網膜剥離、糖尿病網膜症など多様な網膜疾患に対し、硝子体手術を行っています。

その他、網膜細動脈瘤破裂や加齢黄斑変性、眼球破裂を含む外傷、増殖硝子体網膜症など最も難治と呼ばれる眼疾患に対する硝子体手術にも積極的に取り組んでいます。

眼科治療で最も多い白内障に関して、当院では3焦点レンズを含む多焦点眼内レンズを用いた白内障手術についても積極的に行っています。

診療科・部門の紹介

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

アレルギー性鼻炎や好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡鼻副鼻腔炎手術、中耳炎に対する鼓室形成術、高度難聴に対する人工内耳手術、そして頭頸部悪性腫瘍に対する頭頸部外科手術など、耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術を中心に先進的治療を行っています



耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長

後藤 稔

平成13年3月 日本医科大学医学部卒業
平成16年4月 日本医科大学耳鼻咽喉科学 講師
平成23年4月 日本医科大学耳鼻咽喉科学 准教授
令和5年4月 日本医科大学耳鼻咽喉科学 教授
令和7年4月 日本医科大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科学分野 教授

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の診療領域は幅広く、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚器障害、頭頸部領域のアレルギーや炎症、腫瘍など様々な分野を取り扱います。当教室ではそれぞれの分野のエキスパートが在籍しており安心して受診いただける診療体制を構築しています。

外来診療は毎日初診を受け付け、アレルギー性鼻炎や花粉症に対する日本随一の専門外来、頭頸部腫瘍外来、難聴・中耳炎・めまい外来、補聴器外来、喉頭・音声などの専門外来を行っております。

入院手術では耳鼻咽喉科・頭頸部外科のすべての手術に対応し、高度の技術を有するエキスパートチームによる個人個人に合った適切な医療を提供しています。

日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科はスタッフ一丸となって患者さんにやさしい治療を実践できるように日々努力しています。

女性診療科・産科

高い専門性と丁寧なインフォームドコンセントをもとに
安心・安全な診療を提供します



女性診療科・産科部長

鈴木 俊治

1968年3月 長崎大学医学部卒業
1997年1月～ 米国ロサンダ大学胎児生理学教室リサーチ
1998年2月 フェロー
2000年10月 日本医科大学産科婦人科学教室講師
2001年7月 日本医科大学産科婦人科学教室助教授
2002年1月 東京聖路加病院産科部長
2006年4月 聖路加赤十字産科部長
2021年4月 日本医科大学女性生殖医療学大学院教授
2023年4月 日本医科大学付属病院女性診療科・産科部長

女性診療科・産科は、思春期から老年期まで、女性の健康を生涯にわたってサポートする診療科です。女性特有の様々な病態から、妊娠・出産を希望する全てのカップルが抱える身体的・精神的不安にいたるまで、互いに複合した幅広い領域を担っています。

当科では、周産期医療、生殖医療、婦人科腫瘍、女性医学の四部門を設け、産婦人科で扱う全領域をカバーするとともに、それぞれに高い専門性を持たせて診療・研究・教育を行っています。各領域学会(日本産科婦人科学会、日本周産期・新生児医学会、日本生殖医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡、日本人類遺伝学会、日本超音波医学会等)の専門医・指導医資格を有する医師が中心となり、エビデンスに基づいたきめ細かい診療を展開するとともに、ロボット支援手術や着床前・出生前の遺伝学的検査など、大学病院としての役割を考えた医療を提供しています。

様々な悩みを抱える女性に寄り添う診療科として、スタッフ一丸となってその責務を果たしてまいります。

診療科・部門の紹介

泌尿器科

克己殉公の精神と新しい技術で 個々にBESTな医療を提供します



泌尿器科部長

近藤 幸尋

泌尿器学会、北国泌尿器科学会、秋田泌尿器科学会、北国がん
治療学会、日本泌尿器科学会、日本癌治療学会、日本癌学会、
日本泌尿器内視鏡学会、日本内視鏡外科学会、造形学会、
日本泌尿器科学会：専門医、指導医
日本泌尿器内視鏡学会：理事
日本内視鏡外科学会：評議員、財務委員、広報委員
泌尿器癌診療連携協議会：委員
厚生労働省：保険医療材料委員

泌尿器科は尿路(腎、副腎、尿管、膀胱、尿道)、男性器(前立腺、精巣、陰茎)を担当します。

当科は内視鏡手術を得意とし、1970年代より日本で先頭に立ち内視鏡手術を始め、1990年代に腹腔鏡手術そして現在のロボット支援手術に至ります。

がん(悪性腫瘍)に対する薬物治療も広く扱っており、多くの新薬と他職種スタッフによる専門的知識と経験で皆さんにBESTな医療を提供します。

整形外科・リウマチ外科

先端医療の導入で患者様の生活の質の向上と、 最小侵襲手術で早期社会復帰を目指します



整形外科・リウマチ外科部長

平尾 眞

1996年 日本医科大学 卒業
2010年 大阪大学整形外科 助産
2014年 大阪大学整形外科 助産
2019年 大阪大学整形外科 講師
2022年 国立病院機構大阪南医療センター 整形外科 部長
2025年 日本医科大学整形外科 教授
日本整形外科学会専門医、日本足の外科学会認定医、日本リウマチ学会専門医・指導医

整形外科では、骨・関節・筋肉・腱・靱帯・神経など、外傷・変性・炎症・腫瘍などによる運動器の機能障害に対する治療を行う部門です。

部位別には、脊柱、肩関節、肘関節、手関節、手部、股関節、膝関節、足関節、足部と多岐にわたります。
このうちどれか一つでも機能障害を起こすと日常生活動作やスポーツ活動が制限されます。

運動器疾患に対して幅広い年齢層で対応でき、人類の高い運動能力の獲得・健康寿命の延伸に貢献できるよう日々臨床能力・研究能力を高められるように努めております。

日本整形外科学会専門医、ならびに各学会の認定医・専門医による先端的な治療を行っております

診療科・部門の紹介

形成外科・再建外科・美容外科

患者さんの外観やQOLの向上に 私たちは全力で貢献します



形成外科・再建外科・美容外科部長

小川 令

1999年日本医科大学卒業後、同大学形成外科入局。2015年日本医科大学形成外科教室主任教授、富山形成外科・再建外科・美容外科部長に就任。ケロイドや肥厚性瘢痕をはじめとする異常瘢痕の治療のほか、マイクロサージャリーを用いた熱傷再建手術やリンパ浮腫に対する治療を専門とする。日本専門医機構認定・形成外科専門医・分野指導医。日本熱傷学会認定・熱傷専門医。日本創傷外科学会認定・創傷外科専門医。日本皮膚科学会認定・抗加齢医学専門医など

形成外科は、けがややけどの治療はもとより、小耳症・口唇口蓋裂・多指症などを含む先天性疾患の手術、悪性腫瘍の切除や再建、なかなか治りにくい潰瘍やリンパ浮腫などに対するマイクロサージャリー手術や医療機器を用いたメカノセラピー、さらには脂肪吸引やレーザーを用いた美容医療など、老若男女を問わず全身の外観や機能の問題を対象として様々な治療を行います。

再生医学、創傷治癒学、移植学といった基礎研究と臨床が密接に結びつく特徴的な診療科です。

われわれは4つの付属病院で専門外来を行っておりますので、お気軽にご相談いただけましたら幸いです。

高度救命救急センター

救急医療はチームワーク：多職種連携、院内他科との連携で大切な命を守ります 挑戦のスピリットを胸に、地域医療の最後の砦として社会に貢献いたします



救命救急センター センター長

横堀 将司

1999年群馬大学医学部卒業
2006年日本医科大学大学院修了
2010年10月マイアミ大学医学部神経外科
2013年10月～日本医科大学救急医学教室講師
2018年4月～同 大学院教授
2020年4月～同 大学院教授
専門：脳神経外科救急、心臓脳蘇生、神経集中治療

日本医科大学救急医学は、1975年に本学付属病院に創設された「救急医療センター」、1977年の「救命救急センター」、そして1983年に開設された救急医学講座が基盤となっています。日本医科大学の付属4病院や全国に展開する関連施設の救命救急センター、救急部に人材を派遣し、わが国の救急医療の発展に大きく寄与しています。

開設以来の日本医科大学救急医学のモットーは“チャレンジ(挑戦)”です。本学救急医学教室の創設以来、スタッフ全員が共有してきたスピリットです。『どんなときも人命を第一に、決してあきらめない姿勢』。私たちがずっと大切にしてきた方針です。

救急医学は災害・有事対応、感染症対応等、社会に直結する医学です。日々の診療は勿論、地域医療の最後の砦として、地域・社会との連携を目指し、市民の皆様の安全安心に貢献できるよう絶え間ない努力を続けております。

診療科・部門の紹介

化学療法科・化学療法センター

安心・安全かつ有効ながん薬物療法を提供できます ように多職種が協働して最善を尽くします



化学療法科部長・化学療法センター センター長
笠原 寿郎

1986年 金沢大学医学部卒業
1990年 国立がんセンター薬物試験部でリサーチレジデント
学位取得の後金沢大学第三内科（呼吸器内科）で助教、講師、准教授
2007年 金沢大学附属病院外来化学療法室室長補佐就任
2022年6月 日本医科大学付属病院がん診療センターセンター長、化学療法科部長
日本内科学会認定内科医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医

薬物療法は手術、放射線治療と並ぶがんの治療の三本柱の一つです。薬物療法は近年、目覚ましく進歩していて、以前では考えられなかった高い効果が得られるようになりました。

化学療法科では全てのがん患者さんに安心・安全で有効ながんの薬物療法が提供できるように努めています。院内で行われる全ての薬物療法を評価し、詳細な情報を提供いたします。がんの薬物療法では副作用が出ることがありますが、患者さん向けのパンフレットを整え、患者さんご自身でも副作用対策ができるように、また多職種の医療スタッフが一緒になって薬物療法を受けていただけるように努めます。

外来化学療法室では看護師・薬剤師・医師が協力して安心・安全かつ有効ながんの薬物療法を提供しています。
がんの診断、治療に関するセカンドオピニオンなど医療相談もお受けしています。

緩和ケア科

医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、管理栄養士の 多職種チームで取り組む緩和医療



緩和ケア科部長
岩崎 雅江

2007年日本医科大学卒業、同年麻酔科入局。日本医科大学付属病院、Imperial College London、日本医科大学付属病院外科系集中治療室を経て、現職。2015年より当院ペインクリニックおよび緩和ケア科にてがん診療に携わる。

当院では、早期からの緩和ケアに力を入れています。

専門知識を持つ医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、管理栄養士などで構成される緩和ケアチームとして、各診療科の主治医と併診する形で患者さんにお会いします。

疼痛・むくみ・便秘・倦怠感など日々の身体症状だけではなく、不安などの精神的な辛さ、仕事・お金などの社会的な辛さ、生きがいの喪失などの辛さを和らげるため、様々なサポートを早期にはじめていきましょう。

また、在宅医療や転院などもスムーズに行えるよう、医療者同士の連携も深めております。お気軽に緩和ケア科までご相談ください。

診療科・部門の紹介

放射線治療科

がんを狙い撃つ高精度放射線治療と患者に寄り添う チーム医療で体にも心にも優しい診療を行います



放射線治療科部長

前林 勝也

群馬大学医学部卒業、同大学放射線科入局。2016年日本医科大学臨床放射線医学臨床教授、当院放射線治療科部長。がん一般、とくに肺がん、肺癌、婦人科がん、の放射線治療が専門で、教科書やガイドラインの執筆、講演などを広く行っている。日本医学放射線学会放射線科専門医、指導医、日本医学放射線学会日本放射線学会放射線治療専門医、指導医、日本放射線学会研究員理事。

がん治療の3本柱の一つである放射線治療は臓器温存が可能で体に優しい治療です。

特に、当院でも積極的に用いている高精度放射線治療(強度変調放射線治療、定位放射線照射、など)や密封小線源治療はがんに集中的に放射線を狙い撃ちできる治療です。

しかし、がんは周囲正常組織に染み入るように進展するので、画像で分かるがんの塊に放射線を狙い撃ちしても治すことはできません。当科では、ガイドラインに則った狙い撃ちの放射線治療に、今まで手掛けたがん治療の経験を基にしたさじ加減を加え、より効果的で体に優しい治療を行っています。

また、経験豊富な放射線技師や看護師も加えた放射線治療チームで心に優しいケアも心がけています。

救急診療科

2次救急への木目細やかな治療から重症度・緊急度の高い 3次救急まで、シームレスな救急診療体制を実現



救急診療科部長

新井 正徳

1991年長崎大学医学部卒業後、日本医科大学救急医学教室入局。高度救命救急センターでの勤務を経て、2020年から現職。

当科では、主に外傷(けが)の患者の救急診療を行なっています。例えば顔面や頭部の打撲においては、脳神経外科、形成外科、眼科等の多くの診療科を要することがありますが、当院においては、すべての診療科に当直医が常駐しており、24時間体制での専門的診療を受けることができます。

また、外傷患者においては、初期の段階では重症度や緊急度の正確な評価が困難な例があり、病院到着後に急変したり、緊急処置を要する損傷が明らかになることがあります。当院においては、高度救命救急センターが併設されており、直ちに集中治療を展開することができます。

このように、1次、2次救急に対する専門科による木目細やかな治療から、重症度・緊急度の高い3次救急までシームレスにカバーできるのが当科の特色です。

診療科・部門の紹介

東洋医学科

東洋医学・西洋医学の統合医療で 優しくきめ細やかな医療を実践



東洋医学科部長
高木 元

日本医科大学総合医療・健康科学分野大学助教授
救急・総合診療センター長
総合診療科部長
老年内科部長
東洋医学科部長
高気圧酸素治療室長

現代の著しい環境変化やストレス社会では、こころの不安や自律神経・ホルモンバランスの乱れなどからくる体調不良、西洋医学では治療困難な時に日常生活にまで支障を来す様なつらい症状でお困りの方も多くいらっしゃいます。

東洋・西洋医学の統合医療を基礎に、丁寧な問診と中医学の理論に基づいた診断で保険適用エキス剤を中心とした漢方治療を行い、様々な疾患やこころとからだの不調に対し優しくきめ細やかな医療を提供しています。

当科での検査や他科との連携も大学病院ならではのメリットです。

対象疾患は多岐に亘りますが、東洋医学では未病を治す(病気を未然に防ぐ)という考えもありますので、どのような些細な症状でも是非ご相談ください。

遺伝診療科

悪性疾患、周産期・生殖、その他すべての遺伝性疾患や遺伝の問題で悩んでいる方、ご家族からのご相談をお待ちしております



遺伝診療科部長
山田 岳史

1992年浜松医科大学卒業。同年日本医科大学第一外科入局。
日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医
日本大腸肛門病学会指導医、日本消化器学会指導医、日本
消化器内視鏡学会指導医
専門は大腸癌の集学的治療、腹部救急疾患、遺伝性疾患

当科では、マルファン症候群、エーラス・ダンロス症候群、先天性難聴、遺伝性腫瘍等の保険診療が認められている検査、NIPTを含む染色体異常や脊髄小脳変性症、等の保険外の検査を行っております。

また、保険適応がない遺伝学的検査については臨床研究にご参加いただくことで、無償で行えるものもあります。

皆様が抱える様々な悩みに応じて、日本人類遺伝学会認定 臨床遺伝専門医、日本遺伝性腫瘍学会認定 遺伝性腫瘍専門医、日本遺伝カウンセリング学会認定 認定遺伝カウンセラー、臨床心理士、等がお話を伺います。

まずは、認定遺伝カウンセラーがご相談内容を伺いますので
お電話でお問い合わせください。

直通電話番号 03-5814-6690

月～木曜日(9～12時)、月曜日(15～17時)

診療科・部門の紹介

がん診療科

日本医科大学の高い連携性を生かし、 がんの早期発見・早期診断に貢献いたします



がん診療科部長
清水 哲也

1988年日本医科大学卒業
2025年4月 がん診療科部長・准教授
専門：消化器外科・肝胆膵外科・門脈圧亢進症
指導医：外科学会、消化器外科学会、消化器内視鏡学会、消化器病学会、胆道学会など
専門医：肝胆膵外科学会認定 高度医療専門医、内視鏡外科学会・門脈圧亢進症学会 技術認定、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、肝臓専門医など

がん診療科は、がんの早期発見・早期診断を目的に、がん診療センター内に開設された外来診療部門です。

地域の病院・診療所の先生方におかれましても、日常診療やがん検診などで異常が見つかった患者さんがいらっしゃるかと思じます。胸部陰影の異常や便潜血検査の陽性のほか、腫瘍マーカーが高いなどの理由で、紹介先をご検討の際には、ご遠慮なくご紹介ください。

当院では、各診療科の専門医による検査が可能であり、各科の専門医が緊密に連携し、多様ながん診療に対応できる体制を整えております。患者さんが受診された後、速やかに検査を予定し、検査結果は紹介元の先生にご報告させていただきます。

また、がんが発見された場合には、適切な診療科へ速やかに紹介し、治療へと円滑につなげます。

心臓血管集中治療科

胸痛、呼吸困難など「心臓救急」が疑われた際、入院患者が重症化しお困りの際には、
24時間対応「03-5814-5196 心臓救急専用ホットライン」
(医療者専用)に連絡ください



心臓血管集中治療科部長
山本 剛

1993年 日本医科大学卒業
2019年 心臓血管集中治療科 准教授
集中治療専門医、循環器専門医、総合内科専門医・指導医、腫瘍専門医

当CCUは、昭和48年に開設された施設で、心臓血管救急疾患、特に急性心筋梗塞、急性心不全、難治性不整脈など、重症の心血管疾患に特化した心臓血管集中治療室です。

循環器専門医および集中治療専門医の資格を有した専従の循環器内科医、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士によるチーム医療は当然のこと、心臓血管外科・循環器内科とのハートチーム連携、救命救急科・外科系集中治療科との重症部門連携を構築し、最善の重症管理・ケアを実施しています。

「心臓救急専用ホットライン」は心臓血管集中治療科の医師スタッフが24時間対応します。心電図解釈や救急依頼の判断にお困りの際にもご遠慮なく連絡ください。

診療科・部門の紹介

脳卒中集中治療科

「脳卒中専用ホットライン」を設け、スムーズな受け入れをしています



脳卒中集中治療科部長

須田 智

1999年 日本医科大学卒業後に旧第2内科入局
2021年 日本医科大学脳神経内科 准教授
2023年 埼玉医科大学国際医療センター 脳神経内科・脳卒中内科
教授
2025年4月～現職
神経内科専門医・指導医、脳卒中専門医・指導医、認知症専門
医・指導医、専門医、脳卒中と認知症

救急隊や地域医療機関からの連絡を迅速に受け付けるため、「脳卒中専用ホットライン」を設置し、担当医が直接対応しております。スムーズな受け入れが可能です。

MRI・CT・血管造影といった画像診断は、放射線科との緊密な連携のもと、24時間体制で使用可能です。脳卒中が疑われる患者さんは、16床のSCU(脳卒中集中治療室)にて治療を行います。

カテーテル治療にも24時間体制で対応可能です。年間約100例に対応しており、多岐にわたる治療実績があります。

脳神経外科との密な連携により、手術が必要な患者さんについても万全の体制で対応しております。

病理診断科

迅速かつ正確な病理診断を提供することで 質の高い医療の実現に貢献



病理診断科部長

大橋 隆治

1992年日本医科大学卒業後、米国で病理レジデント修了、
米国病理専門医取得
2020年日本医科大学 放射線科病理学教室主任教授、同
付属病院 病理診断科部長に就任、日本病理学会専門医、日
本臨床病理学会専門医

病理診断科は、2008年に制定された最も新しい臨床科です。診療科から提出された生検および手術検体、細胞診検体を、各臓器の専門家が顕微鏡下で評価し、正確な病理診断を各科にお届けしています。

臨床科との合同カンファレンスを行い、臨床診療の一端を担っています。がん診療連携拠点病院として、がんの診断・治療の根拠となる重要な情報を各科へ提供しています。

希望する患者さんからは「病理外来」としてセカンドオピニオンもお受けしておりますので、ご自分の病理診断についての説明を受けたい場合、医療連携室を通してお申し込みください。

病理診断に関する診療ならびに教育に力を注ぎ、迅速で精度の高い医療情報を提供できるよう鋭意努力して参ります。

診療科・部門の紹介

外科系集中治療科

集中治療専従医が核となり、多職種で構成された医療チームにより、集中治療の適応があるあらゆる年齢層のあらゆる疾患の急性期管理に対応



外科系集中治療科部長

間瀬 大司

2005年日本医科大学卒業後、日本医科大学付属病院で臨床研修。2007年日本医科大学麻酔科学教室入局。2011年日本医科大学大学院修了（医学博士）。日本医科大学付属病院集中治療室、日本医科大学平塚北病院麻酔科を経て、2016年日本医科大学付属病院外科系集中治療科配属。2020年より現職。日本麻酔科学会麻酔科指導医、専門医、日本集中治療医学会集中治療専門医、日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医。2018年より日本集中治療学会評議員。

当院外科系集中治療室では、麻酔科医が中心となって管理を行っており、Semi-closed ICUの形態をとっています。

集中治療専従医師が核となり、術後管理にとどまらず、呼吸・循環管理や血液浄化療法、代謝・栄養管理、感染管理、理学療法などを駆使し、24時間体制で集中治療管理を行なっています。

主として大侵襲外科手術の術後管理、併存合併症を有する手術の術後管理を担っていますが、術後合併症や内科的疾患により集中治療を必要とする症例や、院内急変対応システムにより初期対応された症例の急性期管理をも担い、院内で急性期管理を必要とする全ての患者さんを収容する特定集中治療室として、主治医チームと協力しながら治療成績向上に寄与することを使命としています。

口腔科(周術期)

医科と連携し、療養生活を支援するために
最適な歯科医療を提供する



口腔科(周術期)部長

久野 彰子

1993年日本医科大学卒業。同大学附属病院歯科歯科医科入局。歯内科学講座、総合診療科を経て、2015年に日本医科大学付属病院口腔科(周術期)部長に就任。口腔癌等の口腔管理が専門で、日本老年歯科医学会専門医、指導医、日本歯周病学会専門医。

口腔科は療養中の方を支えるための歯科治療や口腔ケアを専門に行っており、主に入院している方を拝見しています。

口腔内の細菌は、う蝕や歯周病を引き起こすだけでなく、肺炎や全身の感染症の原因ともなります。

私たちは、患者さんの医科での治療が口腔トラブルによって妨げられないよう、必要な歯科処置を適切な時期に行うとともに、口腔内を清潔に保つお手伝いをしています。

療養中には、治療で使用する薬の副作用が粘膜や顎骨に現われてしまう場合があるため、薬開始前から予防策を講じ、症状が出た場合には早期の対応にも努めています。

口腔科は各診療科とよく連携し、全身状態に配慮しながら、療養中の患者さんを口から支えていきたいと考えています。

診療科・部門の紹介

リハビリテーション科

包括的リハビリテーション治療 嚥下障害評価・治療、痙縮治療



リハビリテーション科部長

青柳 陽一郎

1993年京都府立医科大学卒業
1998年 University of Alberta, Centre for Neuroscience 留学
2011年 新潟医科大学リハビリテーション医学講座准教授
2020年 日本医科大学リハビリテーション科兼任教授
嚥下障害、痙縮治療、神経生理学、心臓リハビリテーション、
ニューロリハビリテーションが専門。
日本リハビリテーション医学会専門医・指導医、日本神経生
理学会専門医・指導医、日本放射線医学会専門医、嚥下和嚥
医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、心臓リハ
ビリテーション指導士

「適切なリハビリテーションを提供し、再び笑顔を取り戻していただけるように」をモットーとしています。
患者さん一人一人の立場に立ち、病状、身体機能と生活環境に応じた適切なリハビリテーション評価・治療を行います。幅広いリハビリテーションを提供していますが、特に摂食嚥下リハビリテーションと痙縮治療を専門としています。

・嚥下機能評価と摂食嚥下リハビリテーション

嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査、嚥下マノメトリー検査などを行い、どこに問題があるのか、何が原因で食べられないのかを調べます。治療方法・訓練法を摂食嚥下チームで検討し、誤嚥性肺炎や低栄養予防、生活の質の維持・向上に努めます。

・痙縮治療

痙性片麻痺など筋緊張が亢進している患者に対して、生活上の問題点を明らかにした上で、ボツリヌス療法等を行っています。

病理部

国際規格で認められた高い専門性をもつ臨床検査技師が病理組織標本を作製し、細胞診ではがん細胞の判定でがん診療に貢献しております



病理部部長

寺崎 泰弘

2020年5月 - 現在 日本医科大学付属病院 病理部 部長
2013年1月 - 2020年4月 日本医科大学付属病院 病理部 准教授 出向
2013年11月 - 2020年4月 日本医科大学付属病院 病理部 准教授 2009年4月 -
2013年10月 日本医科大学付属病院 病理部 准教授 2009年4月 -
2006年3月 - 2009年3月 NIH 米国国立研究公団 NCI 呼吸器分科 Visiting Fellow
2006年10月 - 2006年2月 熊本大学 大学院医学研究科 総合腫瘍学部門 腫瘍学
専攻 助教
1996年4月 - 2006年9月 日本医科大学 大学院 腫瘍学 専攻 准教授・特任研究員
1994年4月 - 1996年3月 日本医科大学 大学院 腫瘍学 専攻 准教授
1992年4月 - 1994年3月 熊本大学 大学院 腫瘍学 専攻 准教授
1990年5月 - 1992年3月 熊本大学 大学院 腫瘍学 専攻 准教授

病理部業務は病理組織標本作製と細胞診に大きく分類されます。
組織標本作製とは例えば胃がんの検査だと内視鏡検査の際に胃の小さな組織(1~2mm)を採取した後、薬品で処理し約3μmの薄いHE標本を作り病理診断に提供する仕事です。

また、がん遺伝子を標的とした治療薬の使用の可否や324種のがん遺伝子を解析するパネル検査など品質の高い標本が求められる検査には認定病理技師が中心になり素早く的確に対応しております。

細胞診では細胞検査士が日々多数の細胞の中から異常ながん細胞の拾い上げを行い判定し細胞診専門医が最終診断しております。

また、当部の細胞検査士2名は国際NPO法人とともにチェルノブイリ事故後のベラルーシ共和国の被曝住民に対する細胞診を用いた甲状腺癌検診に参加し技術指導も行ってきました。

10年間で計416名の住民を検査し、体内被曝した20歳女性を含む42名(約10%)に癌が見つかり手術や治療が施されました。さらに現地医師のみによる検診も実現し継続しております。

診療科・部門の紹介

中央手術部

日本医科大学付属病院が誇る手術室スタッフがー丸となって、皆様の困難な症例にも安心安全な外科治療を提供しています



中央手術部長
吉田 寛

1986年日本医科大学卒業後、同大学第1外科（消化器外科）入局。2011年に日本医科大学多摩永山病院外科部長、教授。2016年には同病院院長。2018年日本医科大学 消化器外科学教室主任教授・当院消化器外科部長に就任。消化器外科一般、肝臓外科・門脈圧亢進症の研究と治療が専門

日本医大付属病院における中央手術部は、20以上の手術室で外科系に限らず内科系も含めて年間約1万件以上の手術を行っています。

これは患者さんの安心安全な治療を行うため、夜間を含め時には24時間稼働している結果です。

本手術室の特徴は、診療科を超えた合同手術を多数行っていることです。

時には泌尿器科・消化器外科・心臓血管外科など、それぞれのエキスパートが腕を持ち寄って患者さんの手術にあたっています。

このように1つの診療科では困難な手術症例に関しても、麻酔科の高度な管理と外科系の共同手術により「できる手術」を可能にしています。患者さんが安心して手術を受けられる環境を提供しています。

血液浄化療法センター

透析患者さんの急変に常に対応いたします
透析患者さんの包括的マネジメントを行います



血液浄化療法センター センター長

柏木 哲也

日本医科大学卒業・日本医科大学にて臨床研修の後、日本医科大学第2内科入局。創立助産婦人科、日本医科大学分子生物学教室を経て1997年日本医科大学大学院卒業。包括的血液浄化療法を専門とし、2020年より日本医科大学腎臓内科部長教授を務めている。
日本腎臓学会認定専門医、指導医、評議委員、日本透析医学会専門医、指導医、評議委員、東京都市医療看護協会認定医、日本透析学会認定認定医、スポーツ認定医

透析患者さんの医療連携ネットワーク (血液浄化療法センター)



血液浄化療法センターは急性腎機能障害から慢性維持透析、CAPD療法との併用療法、各種疾患に対する血漿交換など多くの疾患を対象としております。

また、隣接する日本医科大学腎クリニックおよび近隣の訪問看護ステーション・在宅医療施設と連携して包括的マネジメントを行い、皆様から高い評価をいただいております。

診療科・部門の紹介

救急・総合診療センター

外科、内科疾患を問わず あらゆる健康問題に対応します

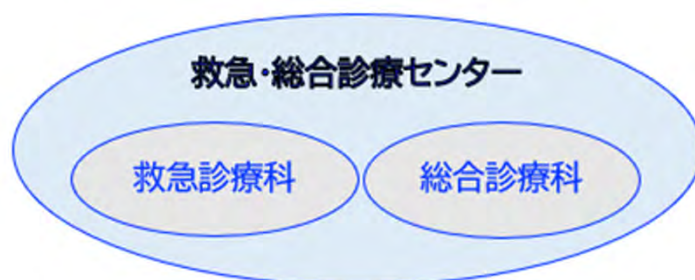


救急・総合診療センター センター長

高木 元

日本医科大学総合医療・健康科学分野大学院教授
救急・総合診療センター長
総合診療科部長
老年内科部長
東洋医学科部長
高気圧酸素治療室長

突然おきる疾患は予想ができません。またパンデミックを来すような危険な疾患もあります。いかなる病態に対しても安全に、かつ安心して診療が受けられる診療体制を整えて診療を行い、高度医療を行う各専門診療科とも連携し対応しております。



救急・総合診療センターは、上記のように外科系専門の救急診療科と内科系専門の総合診療科部門から構成されています。急な体調不良時にも安心して診察を受けることができるように各専門家が担当しています。

がん診療センター

多部門が連携し、タッグを組んで 患者さんに最良の診療を提供します



がん診療センター センター長

笠原 寿郎

1965年 金沢大学医学部卒業
1990年 国立がんセンター基礎試験でリサーチレジデント
学位取得の後金沢大学第三内科（呼吸器内科）で助教、講師、准教授
2007年 金沢大学附属病院外科化学療法室室長臨床教授
2022年6月 日本医科大学付属病院がん診療センターセンター長・化学療法科部長
日本内科学会認定がん科医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医

がん診療センターでは、がん診療に関わる診療科、看護部、薬剤部、医療連携部門と協働して定期的な症例検討会、情報提供を行なっています。

例えば医療費、就労に関する問題などは患者支援センターと、最近目覚ましい進歩を見せている免疫治療の副作用最策は各診療科の専門医と協力してお役に立てるように体制を整えています。

がんの標準治療が終了した患者さんにはがん診断遺伝子パネル検査を行なって治療法を探索します。

診療科・部門の紹介

内視鏡センター

最先端の診断・治療技術を用いて 安全・確実な内視鏡診療を提供します



内視鏡センター センター長

辰口 篤志

1991年 日本医科大学卒業後、日本医科大学第三内科入局
1999年 H1H, H1H2に官学
2015年 日本医科大学付属病院消化器・肝胆内科講師
2021年 教授
日本消化器学会消化器科、日本消化器内視鏡学会専門医、
日本消化器学会専門医、指導医

当センターでは一般的な内視鏡検査はもちろんのこと、他施設では施行困難な専門性の高い検査や治療にも積極的に取り組んでいます。

各分野の専門医の監督下に年間10000件を越える上下部消化管内視鏡検査、それぞれ約500件のERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査)とEUS(超音波内視鏡検査)、約300件の気管支鏡検査を始め、早期癌(食道癌・胃癌・大腸癌など)に対する内視鏡的切除(EMR、ESD)、静脈瘤治療(EVL、EIS)、消化管狭窄の解除(バルーン拡張術、消化管ステント留置術)、胆道・膵管疾患治療(総胆管結石除去、膵胆管ドレナージ/ステント留置術)、肺癌に対する光線力学的療法など、身体への負担が少ない内視鏡治療を行っています。

「内視鏡検査が不安」、「手術が必要といわれたけど内視鏡で治療できないか」など、内視鏡に関するご相談・ご希望がありましたら是非 当センターにお問い合わせください。

臨床検査部

正確かつ精密な検査結果を迅速に提供します



臨床検査部部長

遠藤 康実

1988年 日本医科大学卒業後、同大学第一内科へ入局・2008年にNew South Wales大学 大学院を卒業
2013年に病院講師・2016年に日本医科大学付属病院 臨床検査部 部長に就任
臨床検査専門医、総合内科専門医、循環器専門医

当院では高度で複雑な臨床判断が要求されるため、医師の指示の下に行われる検査の結果は、疾患の診断、治療方針の決定、予後推定に重大な影響をもちます。

当院 臨床検査部は、日々 検査技術を向上し、正確かつ精密な検査結果を迅速に提供することを通して、疾患の治療および医療安全に貢献できるよう、質の高い検査管理システムの構築に努めています。

2016年に当院は臨床検査における品質と能力に関する国際規格ISO15189の認定を受け、当院の検査報告書は、国際社会のニーズに応えることができます。

また、地域の臨床検査の水準を向上させることにより地域の医師や患者さんのニーズに応えるのみならず、地域医療に貢献して参ります。

診療科・部門の紹介

高気圧酸素治療室

多人数用第2種高気圧酸素治療装置により 外来でも安全に治療を実施しています



高気圧酸素治療室室長

高木 元

1993年日本医科大学卒業、第一内科入局・1998年米国アレゲニー大学、1999年ペンシルバニア州立大学、2000年ニュージャージー医科大学インストラクターを経て2019年日本医科大学循環器内科准教授・2020年日本医科大学多摩永山病院総合診療科部長の後2022年より当院総合診療科部長に就任。日本高気圧酸素・潜水医学会理事、専門医

緊急時に医師が同席可能な、多人数用第2種高気圧酸素治療装置を新病院開設に合わせ、新型での導入を致しました。

当院の特徴である急性期治療に関して、一酸化炭素中毒やガス壊疽など治療の要になっています。

また突発性難聴、網膜中心動脈血栓症、末梢動脈疾患による難治性潰瘍や骨髓炎、放射線性膀胱炎など、様々な疾患を抱える各科の患者さんに対して高気圧酸素治療を毎日施行しています。

自費診療としても運用しており、スポーツ外傷などの方も治療を行っています。適応や治療回数など、お気軽にご相談ください。

ME部

医療機器を通して優れた技術と高い安全性で チーム医療に貢献



ME 部部長

石川 真士

2007年 日本医科大学卒業、2009年 日本医科大学付属病院麻酔科・ペインクリニック入局、2013年 日本医科大学大学院 終了、2016年 日本医科大学付属病院麻酔科・ペインクリニック講師、2019年 Imperial College London 留学、2020年 日本医科大学付属病院麻酔科・ペインクリニック准教授、2020年10月よりME部 部長

ME部に在籍する臨床工学技士は「Clinical Engineer(CE)」と呼ばれており、生命維持管理装置の操作や医療機器管理を行っております。

特に、重症患者の管理を行う手術室、集中治療室、心臓カテーテル室、透析室等での機器操作や安全な医療機器を提供するための中央管理を行い、医療機器を通した高い技術提供と安全を目的に幅広く深い知識・経験を持ったCEが各業務において医療チームの一員として活動しています。

また、当院では夜勤制度を導入しCEが24時間院内に常勤していることで、緊急時や夜間のトラブル対応にも迅速に対応可能としています。ME部は医療機器を通した「安全・安心」を提供しています。

診療科・部門の紹介

栄養科

美味しく、安心な食事の提供とともに、患者さんに寄り添ったやさしさの伝わる栄養管理を目指します



栄養科長

酒井 良子

1988年日本医科大学第二病院（現北里小杉病院）に入職。2013年付属病院に異動。2019年副栄養科長を経て2021年栄養科長となり現在に至る。

入院中の食事は、常に新しいメニューを取り入れ、月2回の行事食、一般常食のみですが1日3回の選択食を導入して、入院生活を快適に過ごしていただけるような工夫と、食物アレルギーや、低栄養を含む治療上食事に制限がある患者さんには、病棟へ行き、食事内容の説明や相談も行っています。

また、医師からの指示による栄養指導も、化学療法室での指導を含め、外来、入院患者さんに行っていて、月400件を超えています。

食事療法は患者さん自身が行える治療法です。

栄養科では、患者さんの病状や栄養状態に合わせた栄養管理を提供して、一日でも早く回復するよう栄養面からサポートしていきますので、お気軽にお声かけください。

薬剤部

医療の担い手としての責任のもと、薬学的知識と技能をもって患者さんに最善の薬物療法と安全を提供



薬剤部部長

伊勢 雄也

星薬科大学、星薬科大学大学院博士課程修了後、日本医科大学付属病院薬剤部に入職。2019年4月より現職。高学博士、日本医療薬学会認定がん指導薬剤師、薬物療法指導薬剤師。

医療チームの一員として患者さんへの直接の服薬指導に加え、薬剤師から医師、看護師等他の医療従事者に的確な薬物療法上の情報提供を行うことで、入院患者さんの生活の質(Quality of Life:QOL)向上や医療安全に貢献していきます。

さらに、地域保険薬局と密に連携することで、外来患者さんの薬物治療の質の向上にも寄与します。

また、当院薬剤部は薬剤師レジデント制度をスタートさせており、臨床力を備えた薬剤師を数多く世に送り出すことで当院にかかりつけでない患者さんの健康増進にも力を入れていきます。

診療科・部門の紹介

診療録管理室

適切で堅実な診療録の管理

～正しくわかりやすいカルテで適正な医療の提供をめざす～



保険診療指導部部長
八島 正明

1987年日本医科大学卒業。循環器内科、不整脈学を専攻し、1996年米国UCLAに留学。2012年循環器内科講師、保険診療指導部副部長。2017年保険診療指導部部長、診療録管理室室長。2020年医療管理学講師。

診療録は診療の根幹であり、その記録、保存は重要です。診療録管理室は従来の紙カルテの時代から2011年に電子カルテに移行後も変わりがなく適正な管理を行って来ました。

現在は診療情報からの疾病や手術の分類、院内がん登録、診療録の検索や統計作成の他に診療録監査や診療記録等の開示業務などを行っています。

診療録が正しく記載される様に記載の要件を整えたり、略語表を作成してカルテ判読の時の誤解を防ぐなどの努力も行っています。

さらに診療録の量的監査・質的監査を通じて、適正な診療録が作成されるように日々医師に直接働きかけを行っています。

正しい診療録を通じて、みなさまに適切で高度な医療が提供されるよう努力を継続してまいります。

患者支援センター

多職種が連携して 患者に寄り添う総合的な支援を実施



患者支援センター センター長
村井 保夫

1993年日本医科大学卒。日本医科大学脳神経外科、高度救命救急センターなどで研修後、上山博康先生に師事。さらに、Duke University にて福島孝徳先生の指導を受ける。米国 University of Washington, Visiting Scholar。2017年より日本医科大学准教授。2023年より日本医科大学大学院教授。3000例を超える脳腫瘍、脳血管障害の開頭手術経験に加え、新規性と安全性に関する多数の英文論文を執筆。日本脳神経外科学会、脳神経外科学会、脳卒中の外科学会常務理事。

患者支援センターは、「がん相談支援センター」を含む「患者相談窓口」が設置され、地域医療機関等と連携し入院前から退院後までの総合的な支援を4部門で実施しています。

- 入院調整部門：看護師、薬剤師による入院時支援、入院生活の説明を行っています。
- ベッドコントロール部門：予定・緊急入院の情報を一元化、病床有効活用のため調整を行っています。
- 療養支援部門：入院前から地域と連携し、退院に向けての転院・退院後の生活編成への支援を実施しています。
- 医療連携部門：医療機関からの受診・転院予約、報告書の管理を行っています。

また、病院情報や診療内容をSNS等で広く地域に発信しています。

診療科・部門の紹介

医療情報センター

付属病院の診療の全てに関与する電子カルテシステムの安定的で安全な運用を担っています



放射線科部長
林 宏光

1987年日本医科大学卒業。2020年日本医科大学放射線医学教授。2021年日本医科大学付属病院放射線科 部長。日本医学放射線学会化療部、日本放射線学会副理事長等を務め、放射線科専門医、蘇生医、救急専門医、蘇生医である。

当院では2011年1月に電子カルテシステムを導入し、各部門システムと診療連携することで、大学病院としての高度で安全・安心な医療を提供することに寄与しています。

医療情報センターでは、医療情報システム(電子カルテ・部門システム)の運用管理を行うとともに、障害発生時の対応、セキュリティ対策、新入職員・学生への操作研修、ポータルサイトを用いての職員への情報発信の管理などを行っています。

当院の医療情報システムは大地震にも耐え得る免振ラックにサーバを搭載しており、また、大災害時に備え電子カルテのデータを日々外部に保管し、継続的な診療が行えるよう対策をとっています。

臨床研修センター

良医に求められる幅広い診療能力を習得した、地域医療に貢献する医療者を育成します
本学の教育理念である、愛と研究心を有する質の高い医師の育成を目指します



医療安全管理部部長
浅井 邦也

1988年日本医科大学卒業。旧第一内科入局。2019年日本医科大学千葉北総病院副院長・兼中診療部長。2022年日本医科大学附属病院内科学 大学助教授。2024年日本医科大学付属病院副院長。総合内科専門医、救急科専門医、救急学会認定専門医、心臓血管インターベンション治療学会認定専門医。

【理念】

当院の理念「つくすところ」で良質な医療を提供すべく、医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識し、一般的な診療で頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるようプライマリケアの基本的な診療能力を有する医師を育成します。

【基本方針】

- ①全ての医師に求められる幅広い基本的な臨床能力を持つ医師を育成します。
- ②チーム医療の一員として自身の役割を理解し、地域医療、保健・医療・福祉に貢献できる医師を育成します。
- ③豊かな人間性、医師の倫理性、医療安全管理への積極的な対応、患者及びその家族への説明と同意等、医師に必要な資質が習得できる研修を行います。

診療科・部門の紹介

保険診療指導部

適切な保険診療の提供で健康と医療をまもる ～さらに病院の機能を高める攻めの機能の実践～



保険診療指導部長
八島 正明

1987年日本医科大学卒業。循環器内科、不整脈学を専攻し1996年米国UCLAに留学。2012年循環器内科講師、保険診療指導部副部長。2017年保険診療指導部長、診療録管理室室長。2020年医療管理学講師。

日本の健康保険制度は世界に誇る皆保険制度が確立されており誰もが安心安全な医療が受けられる仕組みが整っています。

保険制度にはルールがあり、正しく実践、運用されて初めて制度の存続可能性が維持されます。

保険診療指導部は医師に直接保険制度のルールを指導する目的で創設されました。

正しい保険診療を通じてみなさまの健康と医療制度の両者を守る事が、保険制度が複雑になった現代には必要です。

医師や多職種の保険診療を指導し、その中で発生する様々な困りごとを従来の組織にとらわれることなく多部署と連携して解決に導き、その過程で病院機能を高める努力を継続して参ります。

臨床研究総合センター

専門のコーディネーターが 臨床研究・治験への参加を積極的にサポート



臨床研究総合センター センター長
大塚 俊昭

1995年日本医科大学卒業後、同大学第一内科（循環器内科）入局。同大学多摩東山病院内科・循環器内科を経て、2012年同大学衛生学公衆衛生学専攻後、2015年当院臨床研究総合センター長に就任。専門は臨床疫学・薬物予防医学。日本循環器学会薬理薬理専門医、日本高血圧学会高血圧専門医、指導医、日本疫学会上級疫学専門医。

医療の発展には、患者さんにご参加いただくことで成り立つ臨床研究、とりわけ治験（新たに開発された医療機器や薬剤について国（厚生労働省）の認可を受けるための臨床試験）の実施が欠かせません。

臨床研究総合センターは、当院で実施される臨床研究や治験の科学的な質および信頼性を確保し、また臨床研究や治験のスムーズな実施に向け、医師と患者さん双方へ様々な支援を提供する部署です。

当センターでは、患者さんの臨床研究や治験への参加を支援するために、多くの臨床研究コーディネーターを配置しています。

医師から臨床研究や治験への参加をすすめられた際の疑問や、臨床研究や治験の参加中に感じる不安など、何でもお気軽にご相談ください。最大限のサポートをいたします。

診療科・部門の紹介

放射線科(技師)

高度な専門知識と高い技術力をもって 求められる放射線診療に24時間体制で対応



放射線科技師長
大湾 朝仁

1984年日本医科大学付属第一病院に診療放射線技師として入職。
1997年より当院勤務となり、2020年放射線科技師長就任。
最適な放射線診療を提供するために品質と安全管理に力を注いでいる。

当院では放射線診療に必要なあらゆる画像診断装置と放射線治療装置を完備しており、69名の診療放射線技師が高度な専門知識と高い技術力をもって、安全で的確な画像検査と放射線治療の提供に努めています。

高度救命救急センターにも救急専用の画像診断装置と常時技師を配置、24時間体制で緊急の画像検査や血管内治療(IVR)などにも迅速に対応しています。

また、患者さんに安心して安全な検査や治療を受けてもらうために、機器の安全管理や被ばく管理、医療安全なども重視し、取り組んでいます。日頃から患者さんの気持ちに寄り添うことを心掛けていますので、画像検査や放射線治療などで不安や聞きたいことがあれば、気軽にスタッフへお声掛けください。

診療科・部門の紹介

看護部

患者さんの気持ちに寄り添い、 「ナースコールを鳴らさない看護」をめざします



看護部長

鈴木 智恵子

1984年 日本医科大学付属看護専門学校卒業
1984年 日本医科大学付属病院 入職
2014年 日本医科大学付属病院 看護部長
2017年 認定看護管理者 資格取得

日本医科大学には4つの病院があり、「ナースコールを鳴らさない看護」を看護の原点としています。

付属病院では、「つくすところ」の理念に基づき、患者さんの気持ちに寄り添い、患者さんが持つ力を最大限に引き出し、「生きる」を支える看護を提供できるよう取り組んでいます。特定機能病院、高度急性期病院として、専門看護師や認定看護師が多く在籍しており、より専門性の高い知識と技術をもった看護師を育成しています。

また、患者さんが安心して地域に戻れるよう、地域の在宅医療を担う医師や訪問看護ステーションの看護師の方々と連携しています。私たち看護職員一人一人が、日本医科大学の看護の原点に真摯に向き合い、患者さんやご家族、地域の方々にご満足いただけるよう、誇りと自信をもって努力してまいります。

看護部(中央手術部)

手術を受けられる患者さんの支援をします



手術前の患者さんと面談し、
不安なお気持ちを支えます。

手術を受けられる患者さんの不安や心配が少しでもやわらぐよう、手術の前日に、手術室担当看護師から患者さんのお一人お一人に説明をさせていただいています。

麻酔科の医師による術前診察後に、手術室に入ってから麻酔がかかるまでの流れなどを、パンフレットに沿って説明いたします。

また、手術は、診療科の医師をはじめ、麻酔科医師、臨床工学技士など多職種がチームとなり、患者さんの対応をさせていただきますので、手術麻酔に関して、ご心配や疑問に思われることは、遠慮や我慢なさらずにご相談ください。

詳しくは、麻酔科外来にお問い合わせください。

診療科・部門の紹介

看護部

ストーマ外来・ストーマ骨盤体操外来



困ったことはなんでも、小さなことでも遠慮
なさらずにご相談ください。
患者さん・ご家族に寄り添ってお答えします。

ストーマとは手術により排泄経路が変更となった人工肛門や人工膀胱をいいます。

外来では皮膚排泄ケア認定看護師が専門医とともにストーマトラブルへの対応、日常生活の不安や疑問の解消、最新情報の提供を含めた定期的なサポートを行います。

在宅支援を必要とされる方には訪問看護と連携しております。

他院で造設された方も含め、フォローアップいたしますのでご相談ください。

また、尿失禁でお困りの方についても対応いたします。

看護部

外来糖尿病看護相談



患者さんの喜びは、私たちの喜びです。

糖尿病は、日々の生活そのものが病状に結びつく疾患ですが、生涯に渡り病状と向き合うことは容易なことではありません。私たち糖尿病看護認定看護師は、患者さんが糖尿病とともにありながら、その人らしくより良い人生が送れることを願い、具体的で達成可能なアドバイスをしたいと考え、2003年に外来糖尿病看護相談を開設し、まもなく20年目を迎えます。

当初は週1回であった予約枠が、次第にフットケア外来、インスリンポンプ支援外来、透析予防外来、などに細分化され、2021年からは土曜日枠も増設するなど、患者さんから医師からも多くのニーズがあると実感しています。

患者さんが療養生活の中で生じる不安や困りごとに対し、多職種と連携し、患者さんとともに生活の工夫を考え、効果が得られた際の患者さんの喜びは、私たちにとっても大きな喜びでもあります。詳しくは糖尿病外来へお問い合わせください。

診療科・部門の紹介

看護部

がん看護相談

当院にはがん関連の専門看護師(がん看護)、認定看護師(がん性疼痛看護、がん薬物療法看護、乳がん看護、がん放射線療法、緩和ケア)が、がん治療を提供する病棟・外来に所属しています。

入院、外来を問わず治療に伴う症状や気持ちのつらさ、治療と仕事の両立、日常生活の工夫など、患者さん・ご家族の抱える困りごとに対して支援します。



専門看護師・認定看護師が
ご相談をお受けしています。

また、がん相談支援センターでは、ソーシャルワーカーとも協力してご相談をお受けし、必要なケアやアドバイスをいたします。

看護部

不妊症・不育症相談



ご心配ごと、悩みごとなど、
遠慮なくご相談ください。

お子さんを授かることについて患者さんご家族とが自分達らしく自己決定ができるように、一緒に考えていきます。

また、医師・胚培養士・遺伝カウンセラーなど多職種と患者さんをつなぐ役割もしています。

体外受精について詳しく知りたい、治療が上手くいかずに落ち込んでいる、家族が治療に積極的ではない、流産をくり返し次の妊娠が怖いなど、誰にも言えずに一人で抱えている気持ちをぜひ相談してください。

毎月 第2、第4土曜日の午後に行っています。

診療科・部門の紹介

看護部

救急・総合診療センター

救急・総合診療センターでは、1次・2次救急の患者さんを24時間受け入れています。

来院される患者さんは、年齢・疾患の幅が広く、緊急度も様々です。

そのため、教育を受けた看護師がJTAS(緊急度判定支援システム)を用いたトリアージを行い、安全・安心な医療と看護の提供をしています。

また、入院が必要になった場合には、速やかに緊急入院病棟に入院していただき、不安な気持ちに寄り添い、症状に応じたケアを行います。

その後は、48時間を目安に各診療科病棟と連携し、継続した看護を心掛けています。



看護部

高度救命救急センター

高度救命救急センターでは生命の危機状態にある患者さんに対し、ECMO(体外式膜型人工肺)や循環補助装置などを用いた集中治療を行っています。

専門性の高い医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士・理学療法士などの多職種が、チームとなって治療・ケアに当たっています。

また、当院は災害拠点病院に指定されており、日本DMAT・東京DMAT隊員資格を持つ医師・看護師・薬剤師が複数名所属しています。

大規模自然災害発生時などは現地に出向し、医療支援を行っています。



診療科・部門の紹介

事務部

科学的分析に基づく経営の実践 ～よりよい医療を実現するために経営安定化に寄与する～



事務部長
塚田 恭匡

1991年日本医科大学に入塾し、同大学付属第一病院、付属病院、経営部、法人本部勤務を経て、2025年4月から当院事務部長。熊本県出身。

病院における事務部門の役割は、診療部門を中心に構成された多数の院内組織を円滑に運営するための支援をすること。

そして、患者さんのためにより良い医療を実践すべく、マーケティングや医療動向をしっかりと見据えた上で、科学的な分析に基づく経営の安定化を図ることにあると言えます。

大学病院として高い診療機能を実践するためには、最新の医療機器の導入やあらたな人員を確保する等の投資を必要とします。

しかしながらこれからの病院創りは、ただ効率化を追求するのではなく、地域の皆さまが安心して来院することが出来るような、病院全体の診療機能を適正化することが重要と考えております。

皆様に期待していただける病院創り。それが私たちの仕事です。

学会認定一覧(1)

名 称
日本老年病学会専門医研修施設
日本病院総合医療医学会専門医研修施設
日本病院総合医療医学会認定施設
日本内科学会認定医制度教育病院
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本不整脈心電学会認定ICD/CRT植込み認定施設
日本不整脈心電学会認定経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術認定施設
日本不整脈心電学会認定WCD使用認定施設
日本不整脈心電学会認定不整脈デバイス患者のMRI検査認定施設
日本老年医学会認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本脈管学会認定施設
日本動脈硬化学会認定専門医認定教育施設
日本心臓血管内視鏡学会認定施設
日本高気圧環境・潜水医学会認定施設
経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会認定経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
補助人工心臓治療関連学会協議会認定IMPELLA実施施設
日本循環器学会認定トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するピンダケル導入施設
日本内科学会認定教育施設
日本神経学会認定教育施設
日本脳卒中学会研修教育施設
日本脳神経血管内治療学会研修施設
日本認知症学会認定教育施設
日本透析医学会認定施設
日本腎臓学会認定研修施設
日本アフェレシス学会認定施設
日本リウマチ学会教育認定施設
日本血液学会研修施設
日本造血・免疫細胞療法学会認定移植施設

学会認定一覧(2)

日本内分泌学会認定教育施設
日本動脈硬化学会認定専門医教育施設
日本肥満学会認定肥満症専門病院
日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本消化管学会認定胃腸科指導施設
日本呼吸器学会専門医制度教育病院
日本臨床腫瘍学会専門医制度教育病院
日本がん治療認定機構制度教育病院
日本感染症学会専門医制度教育病院
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度教育病院
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
日本老年精神医学会専門医制度認定施設
日本総合病院精神医学会ECT研修施設
日本総合病院精神医学会専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度認定研修施設
日本小児科学会認定小児科専門医研修施設
日本小児循環器学会専門医修練施設群
日本周産期・新生児医学会認定施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本レーザー医学会認定施設
日本アレルギー学会認定施設
日本麻酔科学会 麻酔科認定病院
日本麻酔科学会 麻酔科専門医プログラム基幹施設
日本集中治療学会 専門医研修施設
日本ペインクリニック学会 指定研修施設
日本心臓血管麻酔専門医認定施設
日本医学放射線学会 放射線科専門医総合修練機関
日本医学放射線学会 画像診断管理認証施設
IVR学会 IVR専門医修練認定施設
日本脈管学会 認定研修指定施設
ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設
ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設

学会認定一覧(3)

浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本核医学会 専門医教育病院
日本不整脈デバイス工業会 MRI対応埋込型不整脈治療デバイスMRI検査施設認定
日本専門医機構 日本医科大学放射線科専門研修プログラム基幹施設
日本医学放射線学会 放射線科専門研修プログラム基幹施設
日本放射線腫瘍学会 放射線治療認定施設 (A認定)
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 認定研修施設
日本外科学会専門医制度指定修練施設
日本肝臓学会認定施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度による修練施設A
日本食道学会食道外科専門医認定施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設
日本外科学会認定医制度認定修練施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定研修施設
マンモグラフィ検診施設画像認定施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会乳房再建エキスパンダー実施施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会乳房再建インプラント実施施設
日本内分泌外科学会専門医制度認定施設
日本甲状腺学会認定専門医施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定基幹施設
日本胸部外科学会認定制度指定施設
日本成人先天性心疾患学会連携修練施設
ステントグラフト実施施設
パワードシースによる経静脈的リード抜去術実施施設
下肢静脈瘤血管内焼灼実施施設
日本呼吸器内視鏡学会
日本呼吸器外科学会

学会認定一覧(4)

日本臨床腫瘍学会
日本外科学会
日本レーザー医学会
日本臨床細胞学会
日本癌治療学会
西日本がん研究機構
日本化学療法学会
日本脳神経外科学会認定研修プログラム基幹病院
日本眼科学会専門医制度認定研修施設
日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門研修プログラム基幹施設
日本耳科学会 耳科手術指導医制度 認可研修施設
日本鼻科学会 認定手術指導医制度 認可施設
日本頭頸部外科学会 頭頸部がん専門医制度 指定研修施設
日本アレルギー学会 アレルギー専門医教育研修施設
日本気管食道科学会 認定専門医研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本生殖医療学会生殖医療専門医制度研認定研修施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）暫定認定施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会認定泌尿器科専門医教育施設
日本整形外科学会認定専門医研修施設
日本手外科学会研修施設
脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本脊椎脊髄病学会 椎間板酵素注入療法実施可能施設
日本形成外科学会専門研修基幹施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本救急医学会救急科指導医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設
日本外傷学会外傷専門医研修施設

学会認定一覧(5)

日本東洋医学会指定研修施設
日本集中治療医学会認定専門医研修施設
日本病理学会研修認定施設（A）
日本臨床細胞学会認定施設
日本臨床細胞学会認定教育研修施設
日本呼吸療法医学会認定専門医研修施設
日本老年歯科医学会研修機関
日本リハビリテーション医学会認定研修施設
日本医科大学付属病院リハビリテーション科専門医研修プログラム基幹施設
日本臨床栄養代謝学会 NST稼働施設認定施設
日本臨床栄養代謝学会 認定教育施設（令和4年4月取得予定）

施設基準一覧(1)

厚生労働大臣の定めにより、以下の施設基準に係る届出を行っております。

(1) 基本診療料

医療DX推進体制整備加算、地域歯科診療支援病院歯科初診料、歯科外来診療安全対策加算2、歯科外来診療感染対策加算3、歯科診療特別対応連携加算、特定機能病院入院基本料、救急医療管理加算、超急性期脳卒中加算、診療録管理体制加算2、医師事務作業補助体制加算1、急性期看護補助体制加算、看護職員夜間配置加算、無菌治療室管理加算1、無菌治療室管理加算2、放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)、緩和ケア診療加算、精神科身体合併症管理加算、精神科リエゾンチーム加算、摂食障害入院医療管理加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算1、感染対策向上加算1、患者サポート体制充実加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、ハイリスク妊娠管理加算、ハイリスク分娩管理加算、後発医薬品使用体制加算1、病棟薬剤業務実施加算1、病棟薬剤業務実施加算2、データ提出加算、入退院支援加算、認知症ケア加算、せん妄ハイリスク患者ケア加算、精神疾患診療体制加算、精神科急性期医師配置加算、排尿自立支援加算、地域医療体制確保加算、救命救急入院料1、救命救急入院料4、特定集中治療室管理料1、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、新生児特定集中治療室管理料2、新生児治療回復室入院医療管理料、小児入院医療管理料2、短期滞在手術等基本料1

(2) 特掲診療料

外来栄養食事指導料の注2に規定する基準、外来栄養食事指導料の注3に規定する基準、心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算、糖尿病合併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料イ、がん患者指導管理料ロ、がん患者指導管理料ハ、がん患者指導管理料ニ、外来緩和ケア管理料、移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)、糖尿病透析予防指導管理料、小児運動器疾患指導管理料、乳腺炎重症化予防ケア・指導料、婦人科特定疾患治療管理料、腎代替療法指導管理料、一般不妊治療管理料、生殖補助医療管理料1、二次性骨折予防継続管理料1、二次性骨折予防継続管理料2、二次性骨折予防継続管理料3、下肢創傷処置管理料、慢性腎臓病透析予防指導管理料、院内トリアージ実施料、外来リハビリテーション診療料、外来放射線照射診療料、外来腫瘍化学療法診療料1、連携充実加算、外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算、ニコチン依存症管理料、療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算、ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)、がん治療連携計画策定料、外来排尿自立指導料、ハイリスク妊産婦連携指導料1、ハイリスク妊産婦連携指導料2、肝炎インターフェロン治療計画料、このころの連携指導料(Ⅱ)、薬剤管理指導料、検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料、医療機器安全管理料1、医療機器安全管理料2、医療機器安全管理料(歯科)、精神科退院時共同指導料1及び2、歯科治療時医療管理料、救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算、救急患者連携搬送料、在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2、在宅腫瘍治療電場療法指導管理料、持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定、遺伝学的検査の注1に規定する施設基準、染色体検査の注2に規定する基準、骨髓微小残存病変量測定、BRCA1/2遺伝子検査、

施設基準一覧(2)

がんゲノムプロファイリング検査、遺伝子相同組換え修復欠損検査、染色体構造変異解析、先天性代謝異常症検査、デングウイルス抗原定性及びデングウイルス抗原・抗体同時測定定性、HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)、ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)、ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)、クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出、検体検査管理加算(Ⅰ)、検体検査管理加算(Ⅳ)、国際標準検査管理加算、遺伝カウンセリング加算、遺伝性腫瘍カウンセリング加算、心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算、時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト、胎児心エコー法、ヘッドアップティルト試験、長期継続頭蓋内脳波検査、単線維筋電図、神経学的検査、補聴器適合検査、ロービジョン検査判断料、小児食物アレルギー負荷検査、内服・点滴誘発試験、経気管支凍結生検法、口腔細菌定量検査、画像診断管理加算1、画像診断管理加算4、遠隔画像診断、CT撮影及びMRI撮影、冠動脈CT撮影加算、血流予備量比コンピューター断層撮影、外傷全身CT加算、心臓MRI撮影加算、乳房MRI撮影加算、小児鎮静下MRI撮影加算、頭部MRI撮影加算、全身MRI撮影加算、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算1、無菌製剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)、脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)、運動器リハビリテーション料(Ⅰ)、呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)、がん患者リハビリテーション料、集団コミュニケーション療法料、通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算、救急患者精神科継続支援料、抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)、医療保護入院等診療料、静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)、硬膜外自家血注入、エタノールの局所注入(甲状腺)、エタノールの局所注入(副甲状腺)、人工腎臓、導入期加算2及び腎代替療法実績加算、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法、移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法、ストーマ合併症加算、磁気による膀胱等刺激法、口腔粘膜処置、CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー、皮膚移植術(死体)、皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算、組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)、骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)、人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)、後縦靱帯骨化症手術(前方侵入によるもの)、椎間板内酵素注入療法、緊急穿頭血腫除去術、内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術、脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術、仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)、

施設基準一覧(3)

仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)、角結膜悪性腫瘍切除手術、角膜移植術(内皮移植加算)、緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))、緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)、緑内障手術(濾過胞再建術(needle 法))、網膜再建術、経外耳道的内視鏡下鼓室形成術、人工中耳植込術、植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術、内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、鏡視下喉頭悪性腫瘍手術、内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術、内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術、乳がんセンチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)、乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)、胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)、肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法、胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、内視鏡下筋層切開術、食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)、胸腔鏡下弁形成術、胸腔鏡下弁置換術、経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)、経皮的僧帽弁クリップ術、不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)、

施設基準一覧(3)

両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)、両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)、大動脈バルーンパンピング法(IABP法)、経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)、補助人工心臓、経皮的下肢動脈形成術、腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)、腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)、腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)、骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法、内視鏡的逆流防止粘膜切除術、腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)、腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))、腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))、腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))、バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術、腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)、胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)、腹腔鏡下肝切除術、腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、生体部分肝移植術、腹腔鏡下臍腫瘍摘出術、腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術、腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下臍中央切除術、腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術、腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)、腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)、腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法、腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)、腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術、尿道狭窄グラフト再建術、人工尿道括約筋植込・置換術、精巣温存手術、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)、腹腔鏡下仙骨脛固定術、腹腔鏡下仙骨脛固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、

施設基準一覧(4)

不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)、磁気ナビゲーション加算、経皮的
中隔心筋焼灼術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、ペースメーカー移植術及
びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)、両心室ペースメーカー移植術(心筋電極
の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)、両心室ペースメーカー移植術(経
静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)、植込型除細動器移植
術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)、植込型除
細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動
器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術、両室ペーシング機能付き植込型除細動器移
植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)、
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能
付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)、大動脈バルーンパンピング法(IABP法)、経
皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)、補助人工心臓、経皮的下肢動脈形成術、腹
腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)、腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)、腹腔鏡下リンパ節
群郭清術(側方)、骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法、内視鏡的逆流防止粘
膜切除術、腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)、腹腔鏡下胃切除術(単
純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視
鏡手術用支援機器を用いるもの))、腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援
機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用
いるもの))、腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔
鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))、バルーン閉塞下逆行性
経静脈的塞栓術、腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡
下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)、胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切
除(葉以上)を伴うものに限る。)、腹腔鏡下肝切除術、腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機
器を用いる場合)、生体部分肝移植術、腹腔鏡下脾腫瘍摘出術、腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術、
腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下脾中央切除術、
腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術、腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場
合)、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用い
るもの)及び腹腔鏡下副腎髓質 腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるも
の)、

施設基準一覧(5)

腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)、腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法、腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)、腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術、尿道狭窄グラフト再建術、人工尿道括約筋植込・置換術、精巣温存手術、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)、腹腔鏡下仙骨腔固定術、腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)、腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術、体外式膜型人工肺管理料、医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術、医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)、医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)、輸血管管理料Ⅰ、輸血適正使用加算、人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算、胃瘻造設時嚥下機能評価加算、歯周組織再生誘導手術、レーザー機器加算、麻酔管理料(Ⅰ)、麻酔管理料(Ⅱ)、周術期薬剤管理加算、放射線治療専任加算、外来放射線治療加算、高エネルギー放射線治療、1回線量増加加算、強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)、体外照射呼吸性移動対策加算、定位放射線治療、定位放射線治療呼吸性移動対策加算、画像誘導密封小線源治療加算、ミスマッチ修復タンパク免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製の注に規定する病理診断の遺伝カウンセリング加算、病理診断管理加算2、悪性腫瘍病理組織標本加算、クラウン・ブリッジ維持管理料、内視鏡的小腸ポリープ切除術、腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)、膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)、看護職員処遇改善評価料(72)、外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)、歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)、看護職員処遇改善評価料、入院ベースアップ評価料(93)

施設基準一覧(6)

※手術に係る施設基準 ()内の症例数は、2024年1年間の実績となります。

頭蓋内腫瘍摘出術等(144例)、黄斑下手術等(455例)、鼓室形成術等(23例)、肺悪性腫瘍手術等(201例)、経皮的カテーテル心筋焼灼術(525例)、靱帯断裂形成手術等(36例)、水頭症手術等(45例)、鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等(3例)、尿道形成手術等(14例)、角膜移植術等(0例)、肝切除術等(156例)、子宮附属器悪性腫瘍手術等(17例)、上顎骨形成術等(13例)、上顎骨悪性腫瘍手術等(21例)、バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(21例)、母指化手術等(19例)、食道切除再建術等(9例)、胸腔鏡・腹腔鏡下手術(1200例)、人工関節置換術(214例)、乳児外科施設基準対象手術(0例)、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(116例)、冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術(175例)、経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈ステント留置術(365例 内訳:経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞にたいするもの3例、不安定狭心症にたいするもの12例、その他のもの31例、経皮的冠動脈粥腫切除術0例、経皮的冠動脈ステント留置術 急性心筋梗塞にたいするもの39例、不安定狭心症にたいするもの80例、その他のもの200例)

先進医療に関する承認事項

先進医療に関する承認事項

- 術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されたものに限る。)(保険診療費のみ負担)
- 内視鏡的胃局所切除術(232,000円)
- 自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)(保険診療費のみ負担)
- 自家骨髄単核球移植による血管再生治療包括的高度慢性下肢虚血(閉塞性動脈硬化症を伴うものに限る。)(245,000円)
- テネクテプラーゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)(保険診療費のみ負担)
- タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養(24,300円)
- 子宮内膜受容能検査1(125,000円)
- 子宮内細菌叢検査1(90,000円)
- 子宮内細菌叢検査2(40,000円)
- 膜構造を用いた生理学的精子選択術(25,000円)

令和7年6月1日

施設案内



Nippon Medical School Hospital

施設案内



本館2階 エントランス



本館1階Aカウンター(初診受付、会計)

施設案内



本館2階 エレベーターホール



本館1階 ラウンジ及びコンビニ

施設案内



本館2階ユニバーサル外来



本館2階中央処置室

施設案内



本館地下1階CT室



本館地下1階RI検査室

施設案内



本館地下2階高気圧酸素治療室



本館地下3階小線源治療室

施設案内



本館地下1階 アンギオ室



本館地下3階小線源治療室

施設案内



本館地下3階放射線治療室



本館3階高度救命救急センター初療室

施設案内



本館3階高度救命救急センターMRI室



本館3階高度救命救急センター カテーテル室

施設案内



本館5階 S-ICU



本館4階 第13手術室(ハイブリッド手術室)

施設案内



本館 一般病棟4人室



本館 一般病棟個室

施設案内



本館12階 特別室フロア エレベーターホール



本館12階 特別室 ラウンジ

施設案内



本館12階 特別室フロア 個室

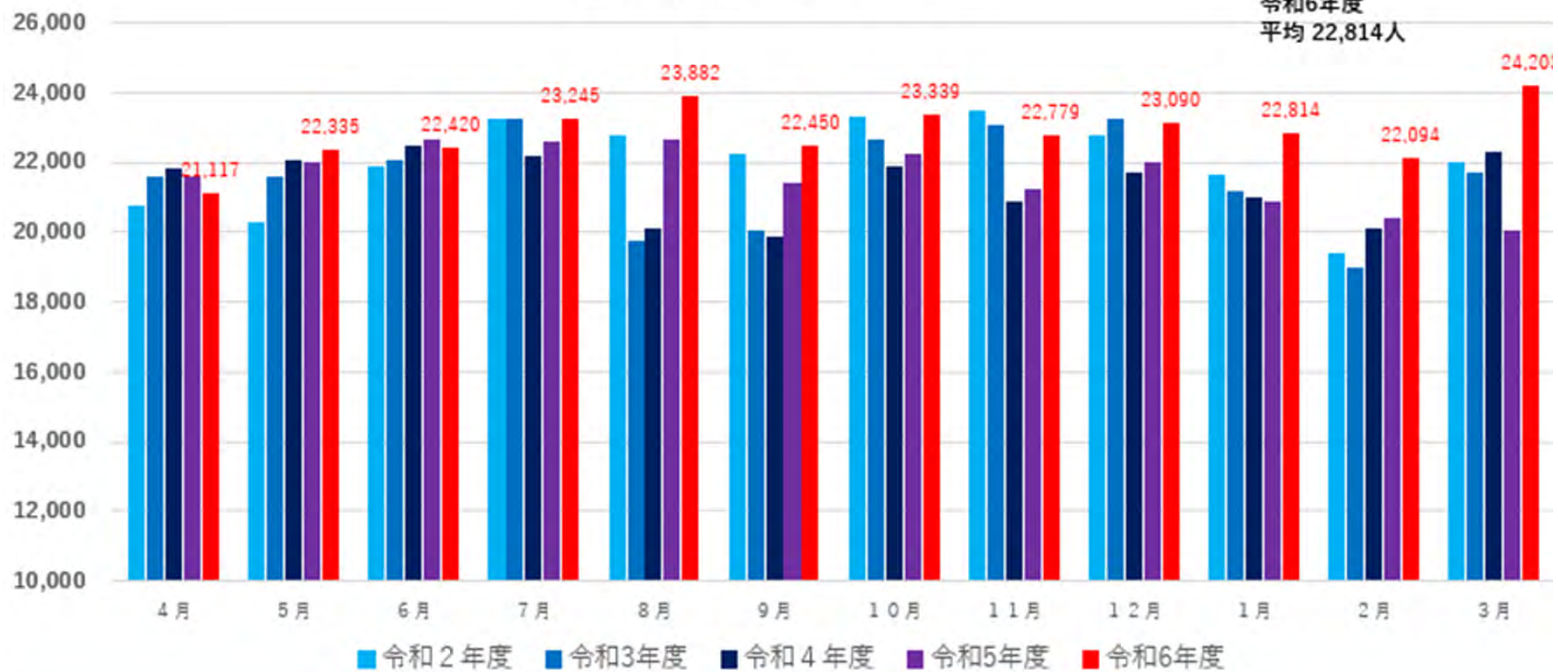


本館12階 特別室フロア 1265号特別室

令和6年度実績報告

(人)

入院患者延数（年度別推移）

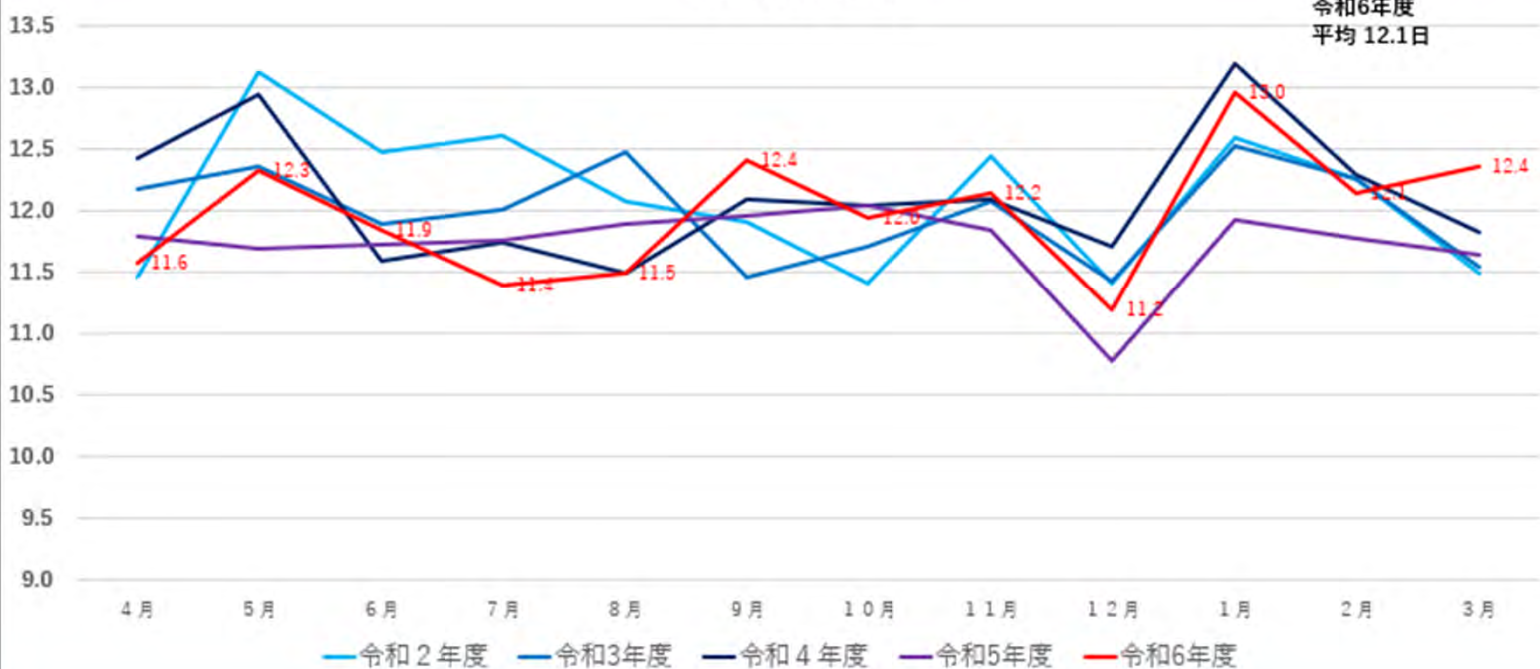


Nippon Medical School Hospital

令和6年度実績報告

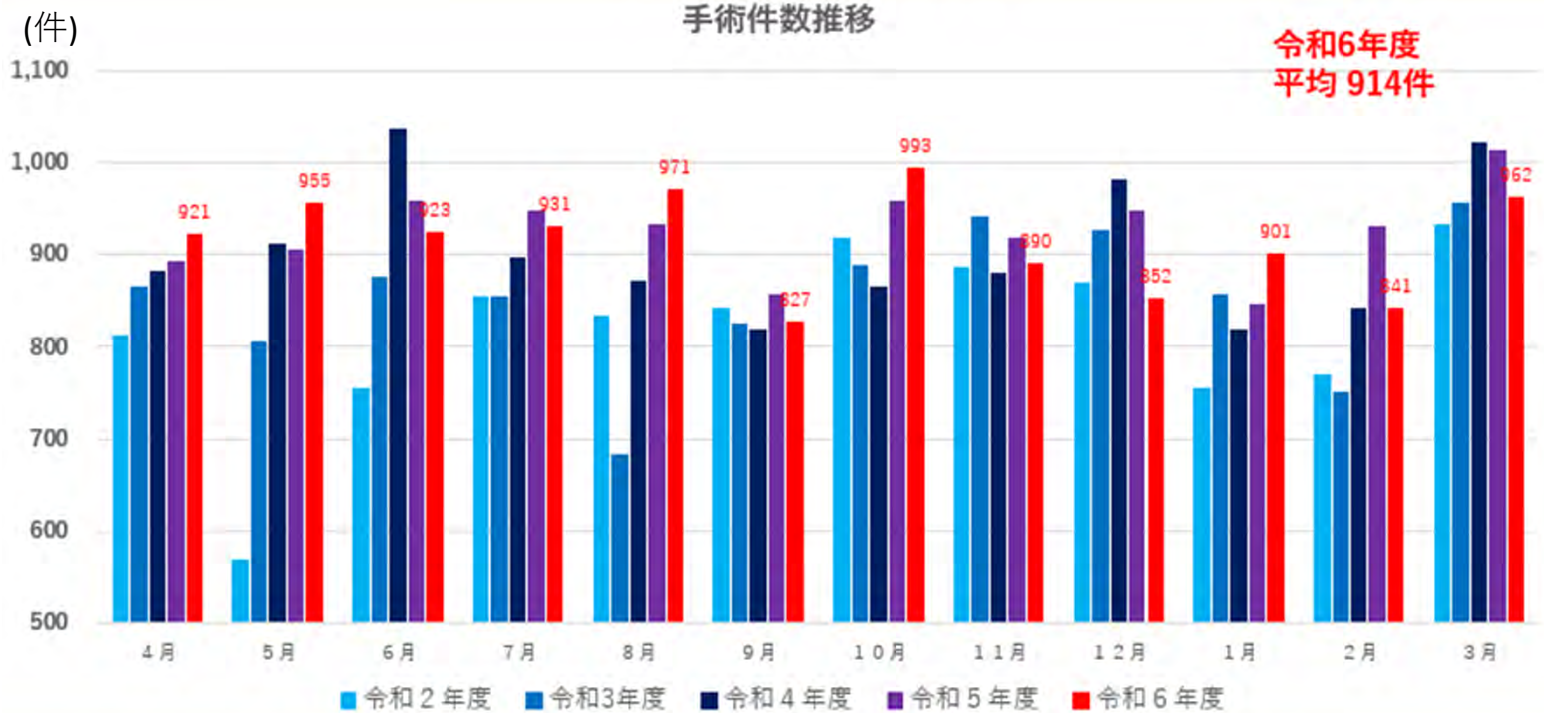
(日)

平均在院日数推移



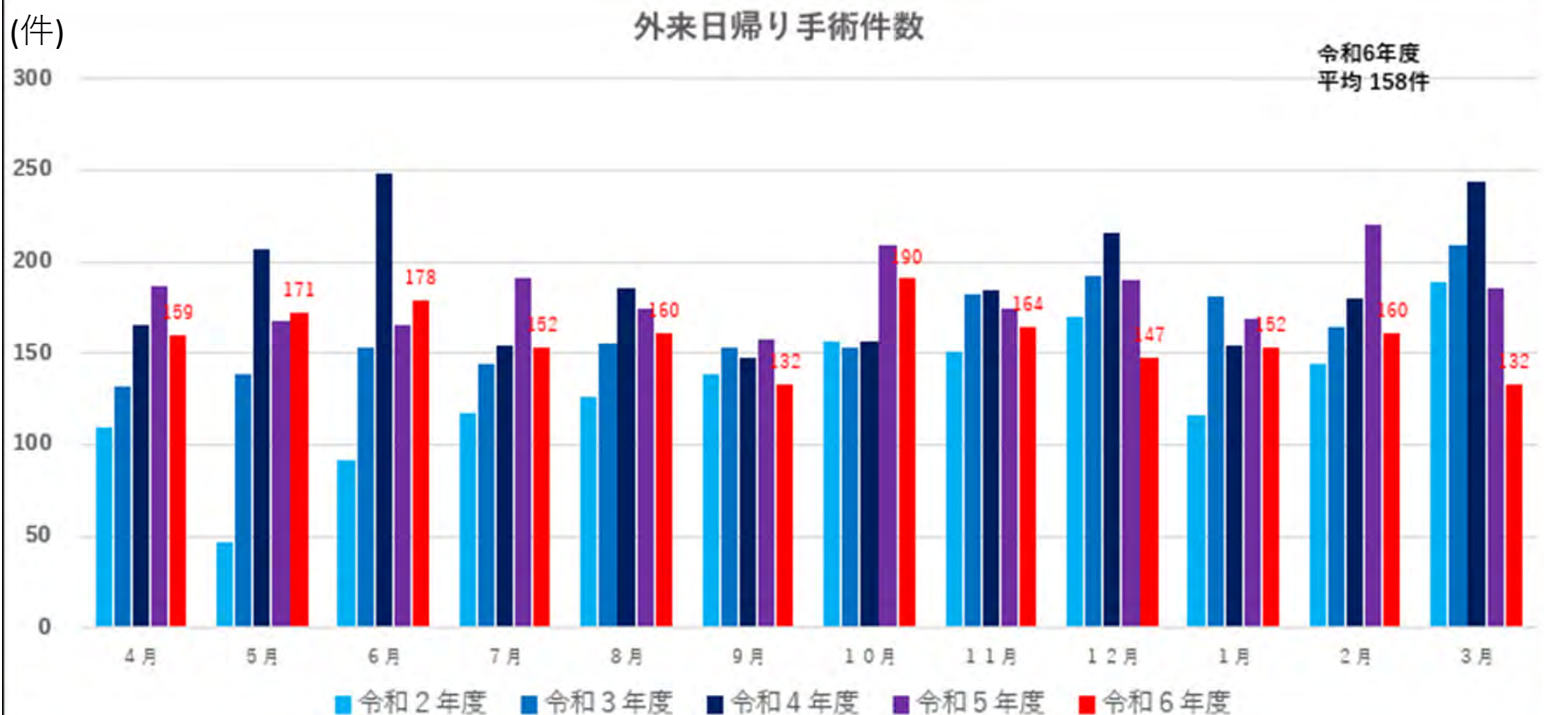
Nippon Medical School Hospital

令和6年度実績報告



Nippon Medical School Hospital

令和6年度実績報告



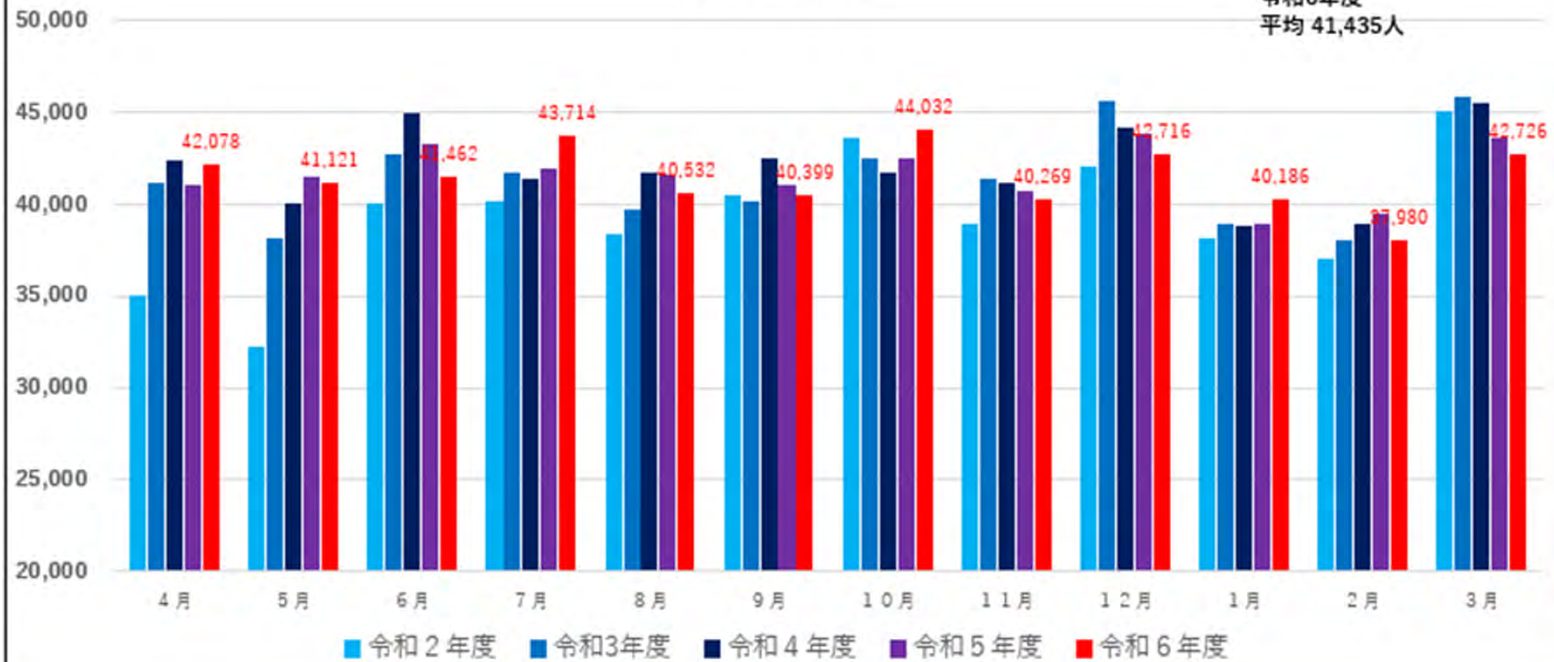
Nippon Medical School Hospital

令和6年度実績報告

(件)

外来延患者数

令和6年度
平均 41,435人

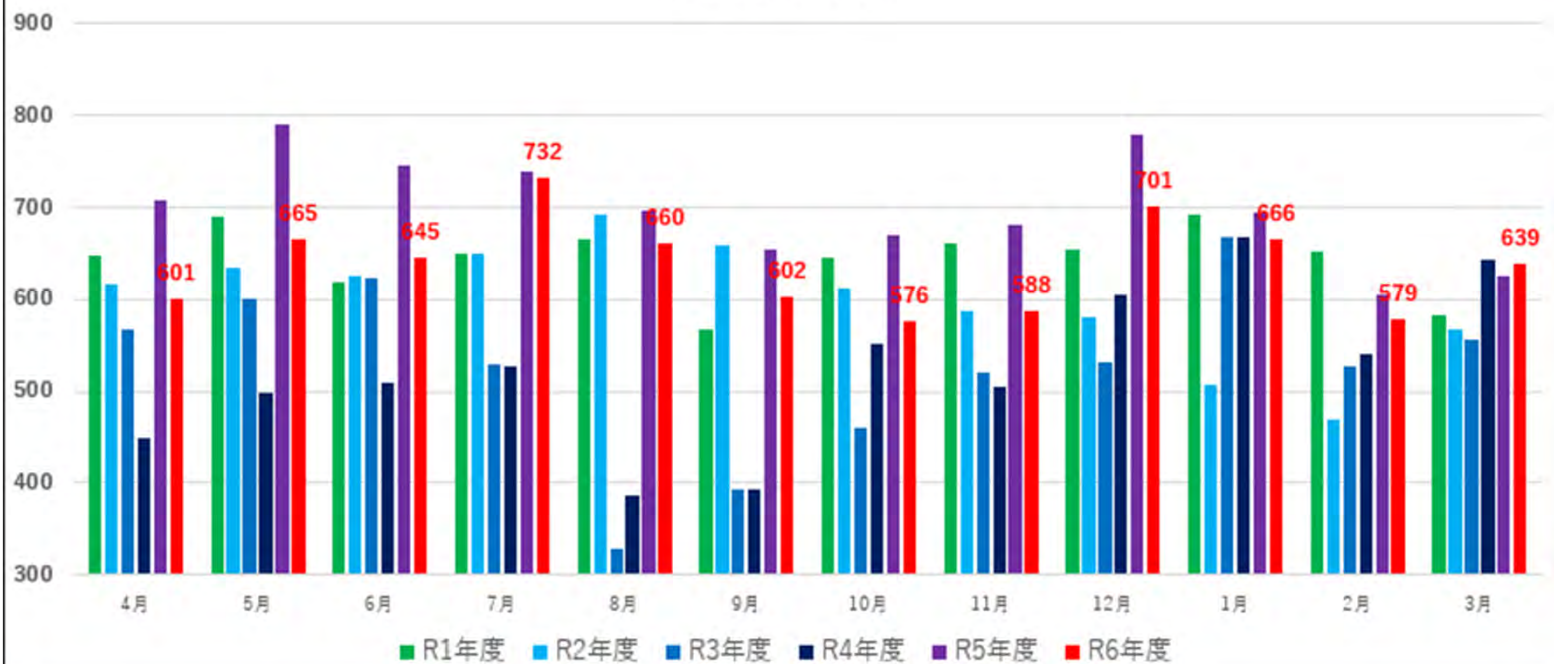


Nippon Medical School Hospital

令和6年度実績報告

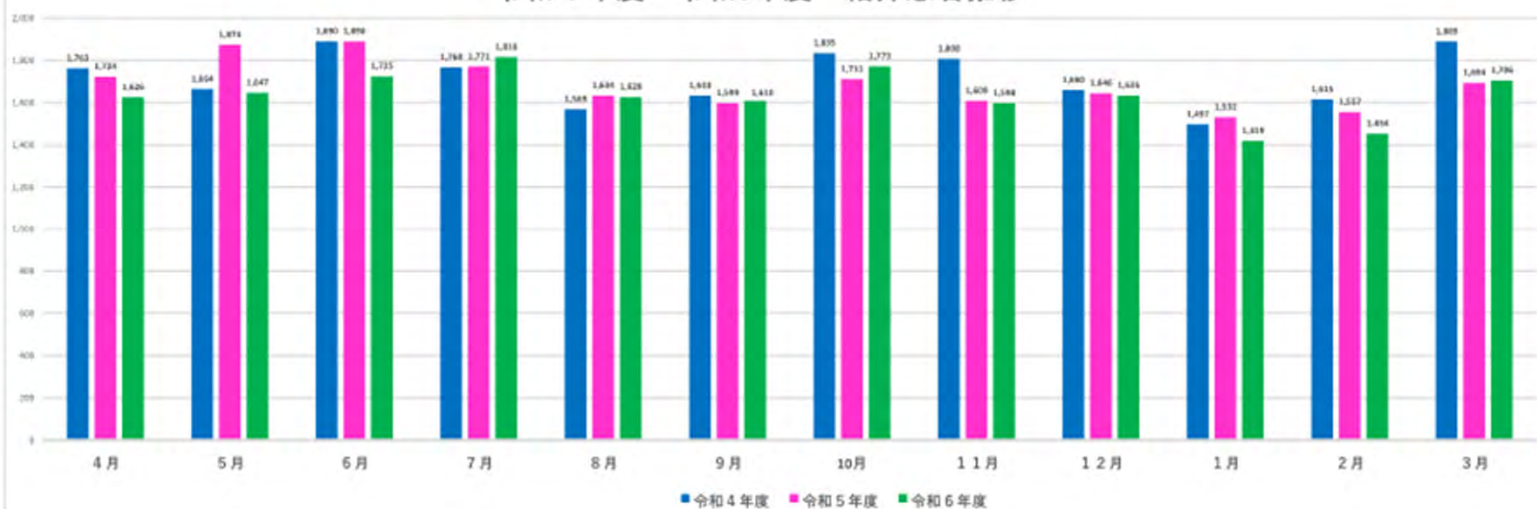
(件)

救急車搬入台数

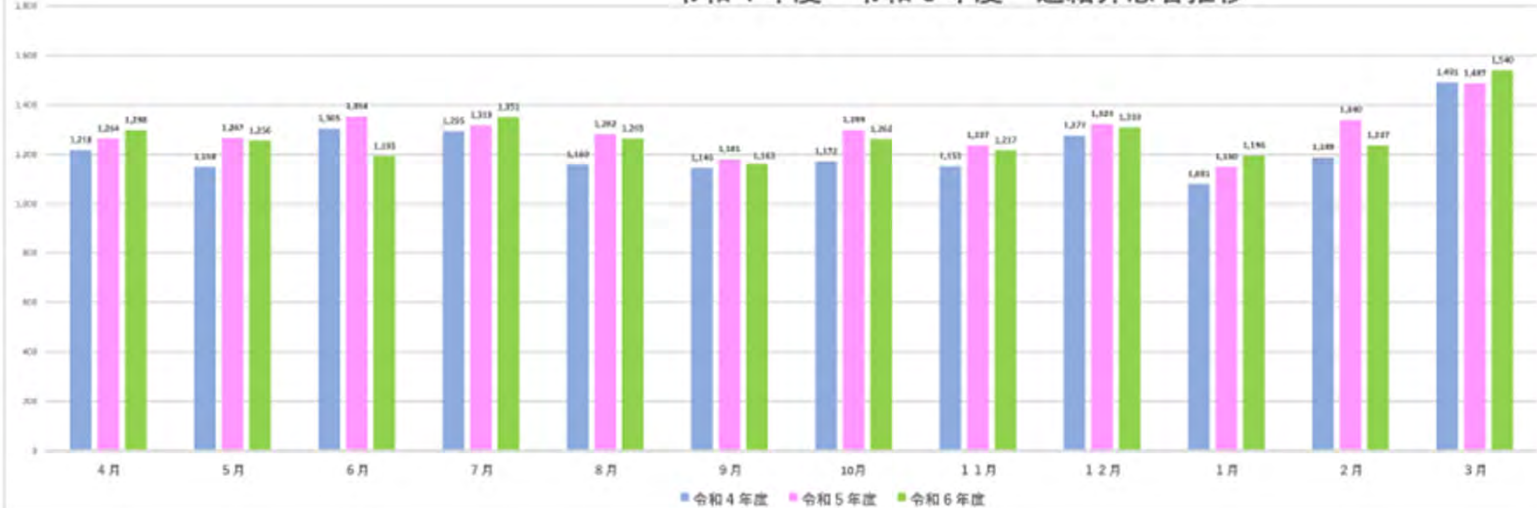


Nippon Medical School Hospital

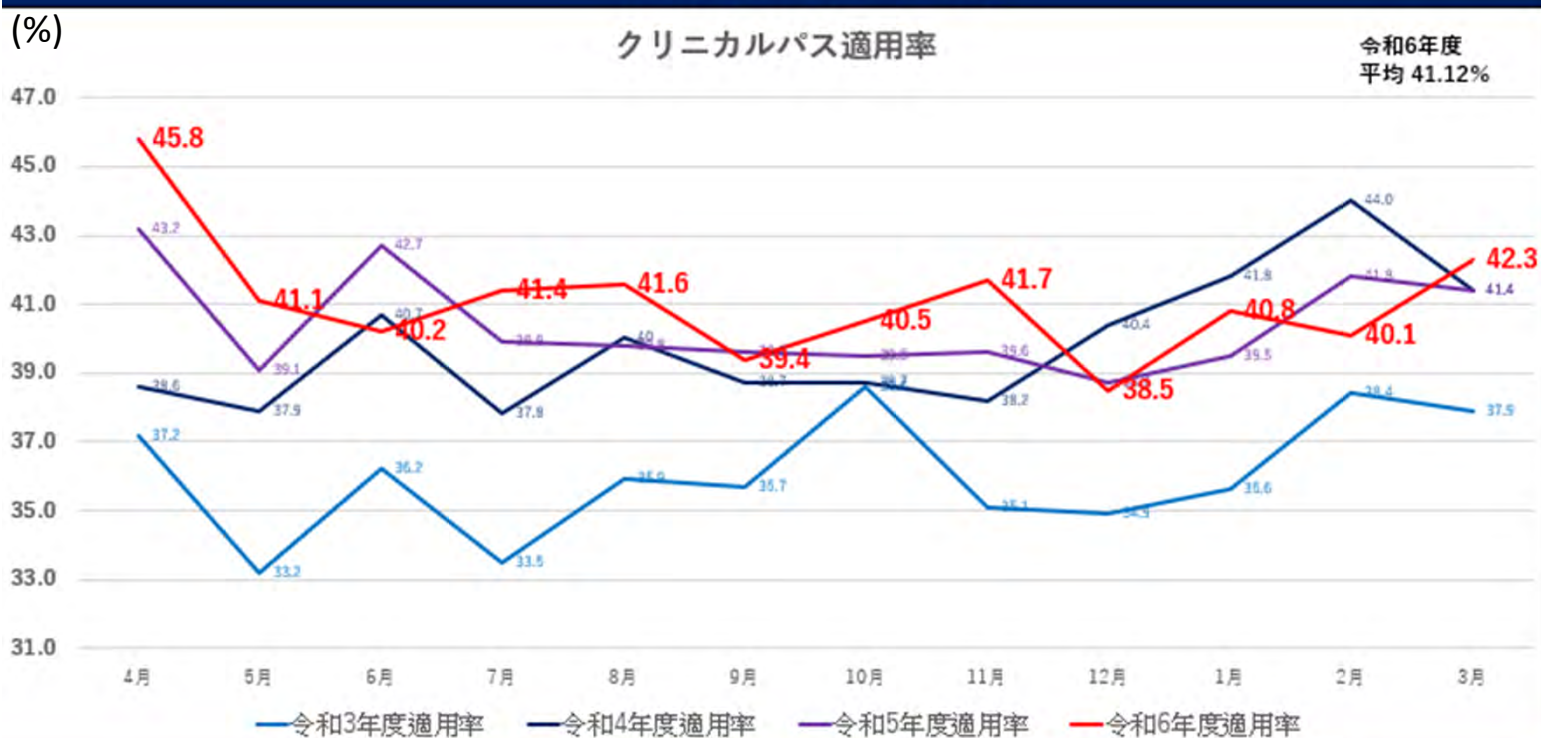
令和4年度～令和6年度 紹介患者推移



令和4年度～令和6年度 逆紹介患者推移



令和6年度実績報告

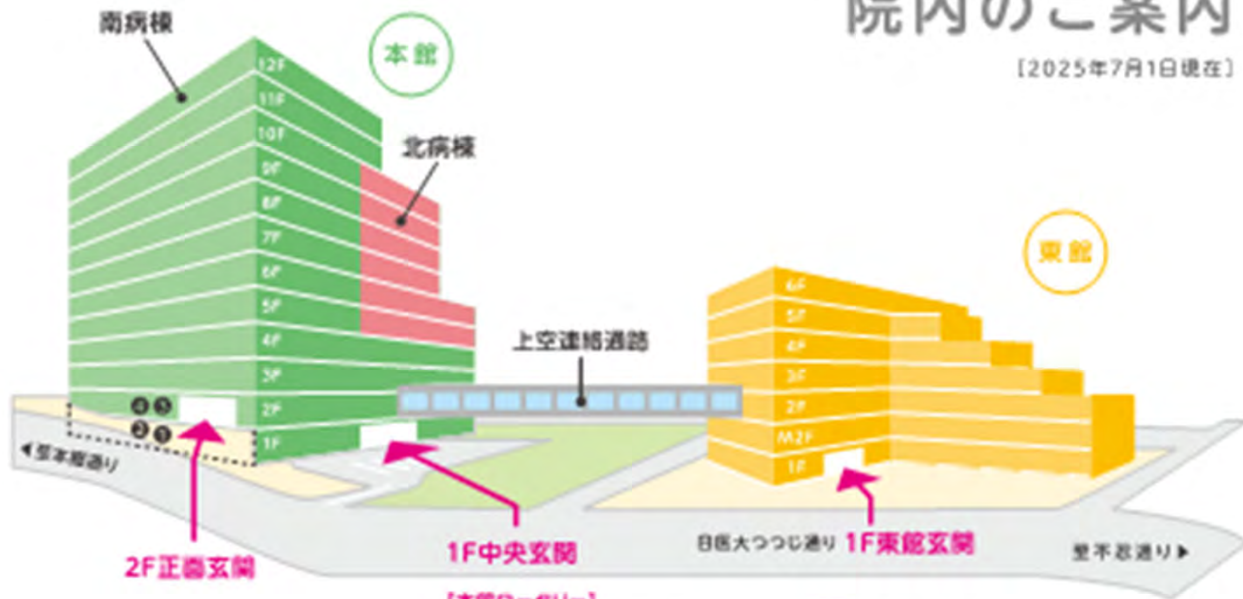


Nippon Medical School Hospital

院内のご案内

院内のご案内

[2025年7月1日現在]



【本部ロータリー】
タクシー乗場・道路バス乗場
文京区8〜9のバス乗場
有料機械式駐車場
台駐車場・バイク駐車場

根津神社

本館 南病棟施設

12F	病棟 S 1251~1267 (個室)
11F	病棟 S 1151~1176 (個室)
10F	病棟 S 1051~1066
9F	病棟 S 951~966
8F	病棟 S 851~866
7F	病棟 S 751~770
6F	病棟 S 651~666
5F	病棟 S 551~559 血液浄化療法センター
4F	口腔科(周術期)
3F	高度救命救急センター (CCM部門・CCU部門)
2F	総合案内 ③カフェ ④和風レストラン 2F正面玄関(8:00~19:00)
1F	中央受付A 患者支援センター [患者相談窓口 入退院受付 文書受付 初診受付] 計算受付 お支払(会計)外来・入院 総合案内 救急・総合診療センター ラウンジ 東京都 脳卒中・心臓病等総合支援センター 図書・資料コーナー ①入院セットレンタル受付 ②コンビニエンスストア 1F中央玄関(時間外出入口)(7:30~19:00)
B1F	各受付 放射線科検査・生体機能検査 RI・内視鏡センター 本館栄養相談室
B2F	高気圧酸素治療室
B3F	放射線科・放射線治療科

本館 北病棟施設

病棟 N 1001~1016
病棟 N 901~916
病棟 N 801~816
病棟 N 701~716
病棟 N 601~609 NICU, GCU
外科系集中治療室 (S-ICU, SCU)

東館施設

病棟 E 1601~1610	6F
病棟 E 1501~1515	5F
病棟 E 1401~1428	4F
病棟 E 1301~1340	3F
病棟 E 1201~1220	2F
管理部門フロア	M2F
心大血管疾患リハビリテーション室 リハビリテーションセンター 外来化学療法室 東館栄養相談室	1F
東館玄関(8:00~19:00)	
診療録管理室	B1F
放射線検査(MRI)・生殖医療外来	B2F

院内のご案内

本館施設		
施設	場所	営業時間
① 入院セットレンタル受付	1階	月～土(日祝日除く) 9:00～12:00、13:00～16:00
② コンビニエンスストア(セブンイレブン)		24時間営業
みんなのトイレ(大人用おむつ交換台を設置)		無休
東京都 脳卒中・心臓病等総合支援センター 図書・資料コーナー		
同書庫(東京都 脳卒中・心臓病等総合支援センター)		無休
③ カフェ(スターバックス コーヒー)	2階	平日・土曜 7:30～19:00 日・祝日 9:00～18:00
④ 和風レストラン(我説うどん)		平日 11:00～15:00 (営業日は当院診療日)
キャッシュサービスコーナー		無休
公衆電話(電話コーナー)	1～3階、5階	無休
飲料自動販売機	地下3階、3～12階	無休
マスク自動販売機	各階	無休
コインランドリー	5～12階	無休(ご利用時間 9:00～20:00)
授乳室	1・2階	無休
タクシー受場	本館ロータリー	無休(24時間)
有料機械式駐車場		
駐車料金券券機		
自転車駐輪場・バイク駐輪場		
バス乗場(文京区B～ぐるバス)		無休
巡回バス乗場(日暮雲駅・駒込駅)		平日・土曜 (日曜日・祝日・年末年始・当院休診日・創立記念日)は無休
巡回バス乗場(花と森の東京病院)		平日 (土曜日・日曜日・祝日・年末年始・当院休診日・創立記念日)は無休
巡回バス乗場(令和あらかわ病院)		平日 (土曜日・日曜日・祝日・年末年始・当院休診日・創立記念日)は無休

※創立記念日の4/15が平日に当たる場合は4/15を含む週の土曜日

東館施設		
施設	場所	営業時間
自転車駐輪場	東館玄関入口横	無休
公衆電話(電話コーナー)	1階～6階	無休
テレビカード販売機	2階～6階	無休
テレビカード精算機	1階	無休
飲料自動販売機	1階～6階	無休
マスク自動販売機	各階	無休
郵便ポスト	東館玄関入口	平日4回、土曜3回、休日2回収集
コインランドリー	2階～6階	無休(ご利用時間 9:00～20:00)

※営業時間については、通常営業時間を記載しております。(2025年7月1日現在)状況により、実際の営業時間と異なる場合もございますので予めご了承ください。

外来部門平面図



外観図



明治44年日本医学校周辺スケッチ



アクセスMAP



電車をご利用の場合

- ・地下鉄南北線………【東大前駅】下車2番出口より徒歩約5分または【本駒込駅】下車1番出口より徒歩約10分
- ・地下鉄千代田線………【千駄木駅】下車1番出口または【根津駅】下車1番出口より徒歩約7分
- ・地下鉄都営三田線…【白山駅】下車A2番出口より徒歩約10分

※JR駒込・西日暮里・日暮里・上野・御徒町駅よりタクシー使用の場合約10分 ※JR水道橋・飯田橋駅よりタクシー使用の場合約15分

バスをご利用の場合

- ・文京区コミュニティバス B-ぐる 日医大病院0分
- ・台東区循環バス「東西めぐりん」日本医科大学付属病院下 下車徒歩3分
- ・JR駒込駅前より 【茶51】 向丘1丁目下車徒歩約3分
- ・JR御茶ノ水駅より 【東43】【茶51】 向丘1丁目下車徒歩約3分
- ・JR秋葉原駅より 【茶51】 向丘1丁目下車徒歩約3分
- ・JR田端駅より 【東43】 向丘1丁目下車徒歩約3分
- ・JR東京駅より 【東43】 向丘1丁目下車徒歩約3分
- ・JR御徒町駅(上野広小路)より【上58】 千駄木2丁目下車徒歩約3分

無料巡回バスをご利用の場合

当院と、JR駒込駅、JR日暮里駅、日本医科大学腎クリニックとを結ぶ無料巡回バスを運行しております。

〔日曜、祝日、年末年始、当院休診日、創立記念日の4/15(当該日が平日に当たる場合は、4/15を含む週の土曜日)は運休〕

※時刻表、のりば案内は当院ホームページをご覧ください。

<https://www.nms.ac.jp/hosp/>

2025年8月版



日本医科大学付属病院

Nippon Medical School Hospital